

160
1215

禁電子式複写

岡山信夫編纂

現天
改正條例規則全書

京都信文堂藏版

特14

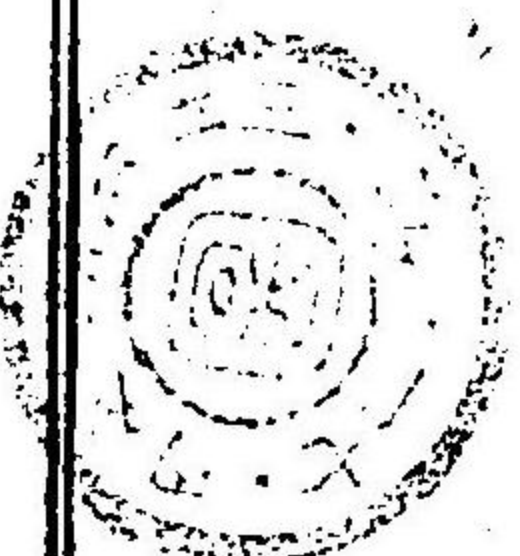
506

No. 35757/23

岡山信夫編纂

現天
改正條例規則全書

京都信文堂藏版



CZ
5
0131

行規條例規則全書第一篇目次

○條例

第一	集會條例	一
第二	保安條例	七
第三	新聞條例	十一
第四	出版條例	二十七
第五	版權條例	三十六
第六	特許條例	四十九
第七	意匠條例	六十七
第八	商標條例	八十
第九	古物商取締條例	九十一
第十	質屋取締條例	九十七
第十一	郵便條例	百

現行條例規則全書第二篇目次

○規則

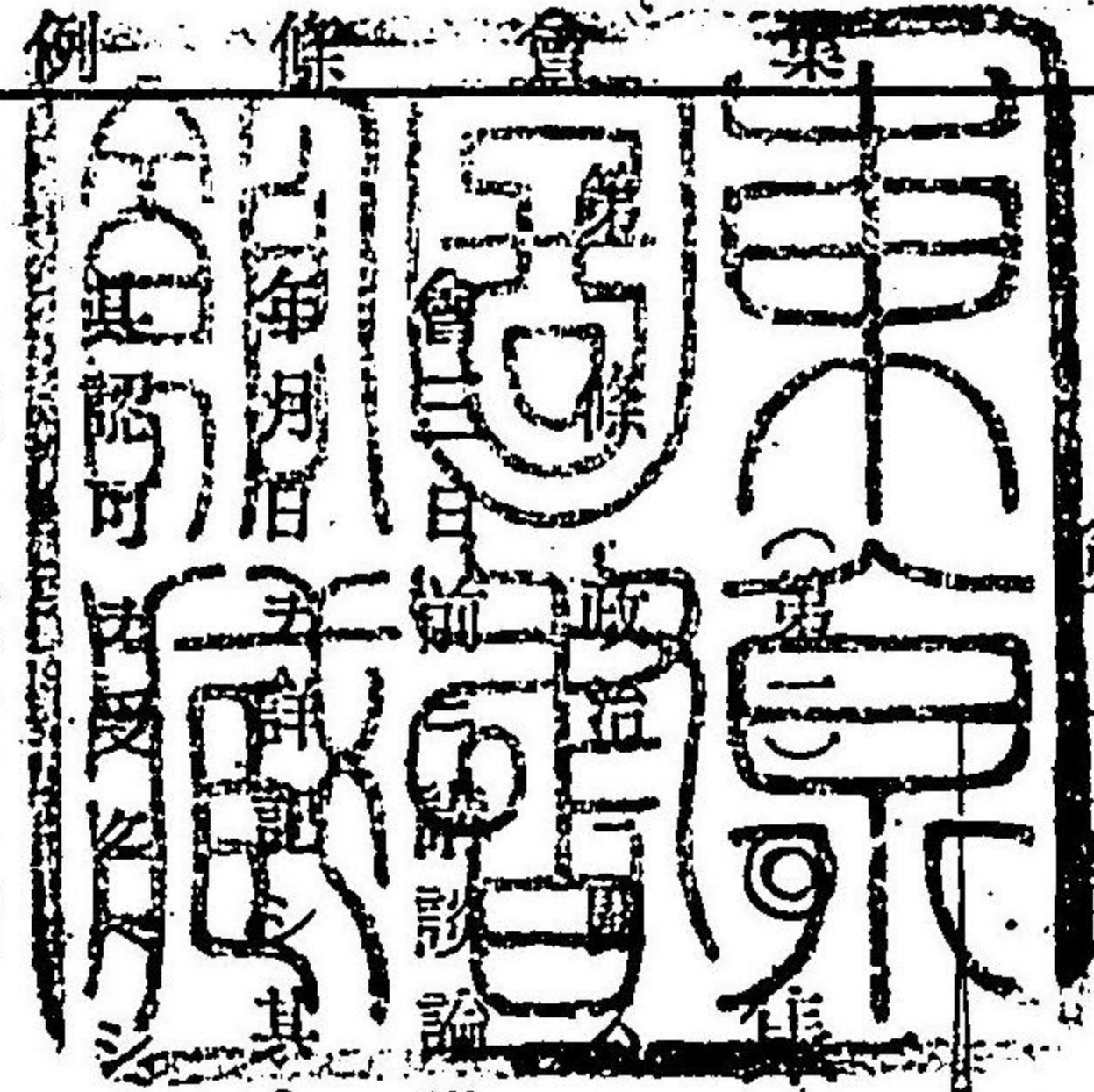
第一	同業組合準則	百七十三頁
第二	茶業組合規則	百七十五頁
第三	度量衡改定規則	百八十四頁
第四	墓地及埋葬取締規則	百八十六頁
第五	街路取締規則	百八十八頁
第六	宿屋取締規則標準	百九十八頁
第七	石油取締規則	二百三頁
第八	賣藥規則	二百六頁
第九	藥品營業并藥品取扱規則	二百十六頁
第十	土地収用規則	二百廿六頁

○稅則

第十一	酒造稅則	二百四十頁
第十二	醫藥營業稅則	二百五十三頁
第十三	煙草稅則	二百五十六頁
第十四	証券印紙規則	二百六十六頁
第十五	車稅則	二百七十八頁
第十六	賣藥印紙稅則	二百八十頁
第十七	醬油稅則	二百八十三頁
第十八	菓子稅則	二百九十頁
第十九	所得稅法	二百九十六頁
第二十	地方稅規則	三百四頁

行現 條例規則全書

第一編 條例



會條例 (明治十三年四月五日布告第十二號)

ル事項ヲ講談論議スル爲メ公衆ヲ集ムル者ハ開
會日ヲ前ニ講談論議ノ事項講談論議スル人ノ姓名住所會同ノ場所
其會主又ハ會長幹事等ヨリ管轄ノ警察署ニ届出テ

第二條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ結社何等ノ名義ヲ以テ
スルモ其實政治ニ
關スル事項ヲ講談論議スル爲メ結社前其社名社則會場及社員名簿
爲メ結合スルモノヲ併稱スル者ハ結社前其社名社則會場及社員名簿
ヲ管轄警察署ニ届出テ其認可ヲ受クベシ其社則ヲ改正シ及ヒ社員
ノ出入アリタルトキモ同様タルベシ此届出ヲ爲スニ當リ警察署ヨ

リ尋問スルコトアレハ社中ノ事ハ何事タリトモ之ニ答弁スベシ
前項ノ結社及其他ノ結社ニ於テ政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル
爲メニ集會ヲ爲サントスルキハ仍ホ第一條ノ手續ヲ爲スベシ〔十五
年六月第廿七號布告ヲ以テ全條改正〕

第三條 講談論議ノ事項講談論議スル人員會場及ビ會日ノ定規アル
者ハ其定規ヲ初會ノ三日前ニ警察署ニ届出認可ヲ受クルトキハ爾
後ノ例會ハ届出ニ及ハスト雖モ之ヲ變更スルトキハ第一條ノ手續
ヲ爲スベシ

第四條 管轄警察署ハ第一條第二條第三條ノ届出ニ於テ治安ニ妨害
アリト認ムルトキハ之ヲ認可セス又ハ認可スルノ後ト雖モ之ヲ取
消スコトアルベシ〔同上〕

第五條 警察署ヨリハ正服ヲ着シタル警察官ヲ會場ニ派遣シ其認可
ノ證ヲ檢査シ會場ヲ監視セシムルコトアルベシ

警察官會場ニ入ルトキハ其求ムル所ノ席ヲ供シ且其尋問アルキハ
結社集會ニ關スル事項ハ何事タリモ之ニ答弁スベシ〔同上本項追加〕
第六條 派出ノ警察官ハ認可ノ證ヲ開示セサルキ講談論議ノ届書ニ
掲ケサル事項ニ且ルキ又ハ人ヲ罪戾ニ教唆誘導スルノ意ヲ含ミ又
ハ公衆ノ安寧ニ妨害アリト認ムルキ及ビ集會ニ臨ムヲ得サルモノ
ニ退去ヲ命シテ之ニ從ハサルキハ全會ヲ解散セシムベシ

前項ノ場合ニ於テ解散ヲ命シタルキ地方長官〔東京ハ
警視總監〕ハ其情狀ニ
ヨリ演説者ニ對シ一箇年以内管轄内ニ於テ公然政治ヲ講談論議ス
ルヲ禁止シ其結社ニ係ルモノハ仍ホ之ヲ解散セシムルコトヲ得内
務卿ハ其情狀ニ依リ更ニ其演説者ニ對シ一箇年以内全國ニ於テ公
然政治ヲ講談論議スルヲ禁止スルコトヲ得〔同上〕

第七條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル集會ニ現役及召集中ニ係
ル豫備後備ノ陸軍軍人警察官官立公立私立學校ノ教員生徒農業工

藝ノ見習生ハ之ニ臨會シ又ハ其社ニ加入スルヲ得ズ〔明治廿二年十二月十四日布告第三十一號ニテ改正〕

第八條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ其旨趣ヲ廣告シ又ハ委員若クハ文書ヲ發シテ公衆ヲ誘導シ又ハ支社ヲ置キ若クハ他ノ社ト連結通信スルヲ得ズ〔同上全條改正〕

第九條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ屋外ニ於テ公衆ノ集會ヲ催スヲ得ズ

第十條 第一條ノ認可ヲ受ケズシテ集會ヲ催スモノ會主ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金若クハ十一日以上三月以下ノ禁獄ニ處シ其會席ヲ貸シタルモノ並ニ會長幹事及ビ其講談論議者ハ各貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ第三條ノ規程ヲ犯シタルモノモ亦本條ニ依ル第十一條 第二條第一項ノ規定ニ背キテ届出ヲ爲サズ又ハ尋問スル所ノ事項ヲ開答セサルトキ社長ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處

シ詐欺ノ届出ヲ爲シ或ハ尋問ヲ得テ偽答スルハ社長ハ右罰金ノ外尙十一日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處ス〔同上〕

第十二條 第五條ノ規程ニ背キ派出警察官ノ臨席ヲ肯セス又ハ其求ムル所ノ席ヲ供セサルトキ會主會長及社長幹事ハ各五圓以上五拾圓以下ノ罰金若クハ一年以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ警察官ノ尋問ニ答ヘス又ハ偽答スルモノハ同罪ニ處ス再犯ニ當ル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金若クハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス〔同上〕

第十三條 派出ノ警察官ヨリ解散ヲ命シタル後尙解散セサル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金若クハ十一日以上六月以下ノ禁獄ニ處ス

第十四條 第七條ノ制限ヲ犯シタルトキ會主會長及社長幹事ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金若クハ十一日以上三月以下ノ禁獄ニ處シ其他情狀ノ重キモノアレバ其社ヲ解散セシム其制限ヲ犯シテ入社シ又ハ臨會スル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第八條ノ制限ヲ犯シタルトキ會主會長及社長幹事ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金若クハ一月以上一年以下ノ禁獄ニ處シ其社ヲ解散セシム此事ニ關スル者モ亦同罪ニ處シ其社長幹事ハ一年以上五年以下結社又ハ入社ヲ禁ス

第十六條 學術會其他何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラズ多衆集會スル者警察官ニ於テ治安ヲ保持スルニ必要ナリト認ムルトキハ之ニ監臨スルコトヲ得若シ其監臨ヲ肯セサルトキハ第十二條ニ依テ處分ス〔同上〕

學術會ニシテ政治ニ關スル事項ヲ講談論議スルコトアルトキハ第十條ニ依テ處分ス

第十七條 前條ノ場合ニ於テ治安ヲ妨害スト認ムルトキハ第六條ニ依テ處分ス〔同上以下三條追加〕

第十八條 凡ソ結社若クハ集會スル者内務卿ニ於テ治安ニ妨害アリ

ト認ムルトキハ之ヲ禁止スルコトヲ得若シ禁止ノ命ニ從ハズ又ハ仍ホ秘密ニ結社若クハ集會スル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金若クハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第十九條 成法ニ制定スル所ノ集會ハ此限ニ在ラズ

○官吏公衆ニ對シ政治上又ハ學術上ノ意見ヲ演說シ又ハ叙述スルヲ得〔明治廿二年一月二十四日内閣訓令〕

凡官吏タル者ハ自今其職務外ト雖モ公衆ニ對シ政事上又ハ學術上ノ意見ヲ演說シ又ハ之ヲ叙述スルコトヲ得但各長官ノ監督ニ從屬スベシ

法律規則ヲ以テ特ニ制限セラレタル官吏ハ前項ノ限ニアラズ

（第二）◎保安條例（明治二十二年十二月廿六日公布勅令第六十七號）

第一條 凡ソ秘密ノ結社又ハ集會ハ之ヲ禁ス犯ス者ハ一月以上二年

以下ノ輕禁錮ニ處シ拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其首魁及教唆者ハ二等ヲ加フ

內務大臣ハ前項ノ秘密結社又ハ集會又ハ集會條例第八條ニ載スル結社集會ノ聯結通信ヲ阻遏スル爲メ必要ナル豫防處分ヲ施スコトヲ得其處分ニ對シ其命令ニ違犯スル者罰前項ニ同シ

第二條 屋外ノ集會又ハ群集ハ豫メ許可ヲ經タルト否トヲ問ハズ警察官ニ於テ必要ト認ムルトキハ之ヲ禁スルコトヲ得其命令ニ違フ者首魁教唆者及情ヲ知リテ參會シ勢ヲ助ケタル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其附和隨行シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

集會者ニ兵器ヲ携帶セシメタル者又ハ各自ニ携帶シタル者ハ各本刑ニ二等ヲ加フ

第三條 內乱ヲ隱謀シ又ハ教唆シ又ハ治安ヲ妨害スルノ目的ヲ以テ

文書又ハ圖畫ヲ印刷又ハ板刻シタル者ハ刑法又ハ出版條例ニ依リ處分スルノ外仍其犯罪ノ用ニ供シタル一切ノ器械ヲ沒収スベシ

印刷者ハ其情ヲ知ラサルノ故ヲ以テ前項ノ處分ヲ免ル、トヲ得ズ

第四條 皇居又ハ行在所ヲ距ル三里以内ノ地ニ住居又ハ寄宿スル者ニシテ內乱ヲ陰謀シ又ハ教唆シ又ハ治安ヲ妨害スルノ虞アリト認ムルトキハ警視總監又ハ地方長官ハ內務大臣ノ認可ヲ經期日又ハ時間ヲ限リ退去ヲ命シ三年以内同一ノ距離内ニ出入寄宿又ハ住居ヲ禁スルコトヲ得

退去ノ命ヲ受ケテ期日又ハ時間内ニ退去セサル者又ハ退去シタルノ後更ニ禁ヲ犯ス者ハ一年以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ仍五年以下ノ監視ニ付ス

監視ハ本籍ノ地ニ於テ之ヲ執行ス

第五條 人心ノ動乱ニ由リ又ハ內乱ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲ス者アルニ

例 條 安 保

由リ治安ヲ妨害スルノ虞アル地方ニ對シ内閣ハ臨時必要ナリト認
ムル場合ニ於テ其一地方ニ限り期限ヲ定メ左ノ各項ノ全部又ハ一
部ヲ命令スルコトヲ得

一 凡ソ公衆ノ集會ハ屋内屋外ヲ問ハズ及何等ノ名義ヲ以テスルニ
拘ラズ豫メ警察官ノ許可ヲ經サルモノハ總テ之ヲ禁スル事
二 新聞紙及其他ノ印刷物ハ豫メ警察官ノ檢閲ヲ經ズンテ發行スル
ヲ禁スル事

三 特別ノ理由ニ因リ官廳ノ許可ヲ得タル者ヲ除ク外銃器短銃火藥
刀劍仕込杖ノ類總テ携帶運搬販賣ヲ禁スル事

四 族人出入ヲ檢査シ旅券ノ制ヲ設クル事

第六條 前條ノ命令ニ對スル違犯者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮又
ハ五圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス其刑法又ハ其他特別ノ法律ヲ
併セ犯シタルノ場合ニ於テハ各本法ニ照シ重キニ從ヒ處斷ス

第七條 本條ハ發布ノ日ヨリ施行ス

(第三) ◎ 新聞條例 (明治二十年十二月二十九日公布敕令第七十五號)

第一條 新聞紙ヲ發行セントスルモノハ發行ノ日ヨリ二週日以前ニ
發行地ノ管轄廳(東京府ハ警視廳)ニ經由シテ内務省ニ届出ヘシ

第二條 新聞紙發行ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 題號

二 記載ノ種類

三 發行ノ時期

四 發行所及印刷所

五 發行人編輯人及印刷人ノ氏名年齢

編輯人ハ二人以上アルキハ其主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者タ
ルベシ但紙面ニ部門ヲ分ケ其各部門ニ主任編輯人ヲ設クルコト

ヲ得

第三條 届出ヲ爲シタル後題號記載ノ種類又ハ發行人ヲ變更セント
スルトキハ二週日以前ニ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ベシ

發行ノ時期發行所印刷所編輯人印刷人ニ變更アリタルトキハ一週
日以内ニ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ベシ

第四條 發行人死去シ又ハ法律上其資格ヲ失ヒタルトキハ一週日以
内ニ發行人ヲ定メ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ベシ其届出チナスマデ
ハ假發行人ノ名義ヲ以テ發行スルヲ得

第五條 發行ノ届出チナシタル日又ハ發行休止ノ日ヨリ五十日ヲ過
キテ發行セサルトキハ其届出ノ効ヲ失フモノトス

第六條 内國人ニシテ滿二十歳以上ノ男子ニ非サレハ發行人印刷人
トナルコトヲ得ズ

公權ヲ剝奪セラレタル者及公權ヲ停止セラレタル者其停止間發行

人編輯人印刷人トナルコトヲ得ズ

第七條 編輯人印刷人ハ互ニ相兼マルコトヲ得ズ

第八條 發行人ハ保證トシテ左ノ金額ヲ届書ト共ニ管轄廳（東京府ハ警視廳）

ニ納ムベシ

一 東京ニ於テハ千圓

一 京都大坂横濱兵庫神戸長崎ニ於テハ七百圓

一 其他地方ニ於テハ三百五拾圓

一 一月三回以下發行スルモノハ各前記ノ半額

保證金ハ時價ニ準シタル公債證書又ハ國立銀行ノ限手形ヲ以テ之
ヲ納ムルコトヲ得

學術技藝統計官令又ハ物價報告ニ關スル事項ノミチ記載スルモノ
ハ本條ノ限ニアラズ

第九條 保證金ハ新聞紙ノ發行ヲ廢止シ又ハ其發行ヲ禁止セラレタ

ルキハ之ヲ送付ス

第十條 第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲サズ又ハ保證金ヲ納ムベキ新聞紙ニシテ保證金ヲ納メズシテ發行スルモノハ正當ノ届出ヲ爲シ又ハ保證金ヲ納ムルマデ警視總監又ハ地方長官ニ於テ其發行テ差止ヘン

第十一條 新聞紙ハ每號ニ發行人編輯人印刷人ノ氏名發行所ヲ記載スベシ

發行人印刷人ノ外何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラズ新聞紙又ハ記載ノ條項ニ署名スル者ハ總テ編輯人ト共ニ其責ニ當ラシム

第十二條 新聞紙ハ其發行毎ニ先ツ内務省ニ二部管轄廳東京ハ警視廳及管轄始審裁判所檢事局ニ各一部ヲ納ムベシ

第十三條 新聞紙ニ記載シタル事項ノ錯誤ニ付キ其事項ニ關スル當人又ハ關係アル者ヨリ正誤又ハ正誤書辨駁書ノ掲載ヲ求メタルト

キハ其求ヲ受ケタル後其次回又ハ第三回ノ發行ニ於テ正誤ヲ爲シ又ハ正誤書辨駁書ノ全文ヲ掲載スベシ若シ正誤書辨駁書ノ字數原文ノ二倍ヲ超過スルトキハ其超過ノ字數ニ付キ其新聞社ノ定メタル普通廣告料ト同一ノ代價ヲ要求スルコトヲ得

正誤辨駁ハ原文ト同號ノ活字ヲ用ヒ同一欄外ノ首部ニ掲載スベシ正誤辨駁ノ文章若クハ趣旨法律ニ觸ル、トキ又ハ之ヲ求ムル者其氏名住所ヲ明記セザルトキハ掲載スルヲ要セス

第十四條 官報又ハ他ノ新聞紙ヨリ抄録セシ事項ニシテ其官報又ハ新聞紙ニ於テ正誤又ハ正誤書辨駁書ヲ掲載シタルキハ當人又ハ關係人アル者ノ求ナシト雖モ其新聞紙ヲ得タル後其次回又ハ第三回ノ發行ニ於テ正誤スベキコト前條ノ例ニ依ル但廣告料ヲ要求スルコトヲ得ズ

第十五條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ裁判ヲ受ケタルトキハ其

新聞紙ノ次回發行ニ於テ宣告ノ全文ヲ掲載スベシ

第十六條 重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ付セサル以前ニ於テ之ヲ記載スルコトヲ得ズ

傍聽ヲ禁シタル訴訟ニ關スル事項ハ之ヲ記載スルコトヲ得ズ

第十七條 刑律ニ觸レタル罪犯ヲ曲庇スルノ論說ヲ記載スルコトヲ得ズ

刑事ノ被告人又ハ刑律ニ觸レタル犯罪人ヲ救護シ又ハ賞恤スル爲ニスル文書ヲ掲載スルコトヲ得ズ

第十八條 公ニセサル官ノ文書及上書建白請願書ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ詳畧ニ拘ラス之ヲ記載スルコトヲ得ズ

官廳ノ議事及法律ニ依リ傍聽ヲ禁シタル公會ノ議事ハ詳畧ニ拘ラズ之ヲ記載スルコトヲ得ズ

第十九條 治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞乱スルモノト認ムル新聞紙ハ

内務大臣ニ於テ其發行ヲ禁止シ若クハ停止スルコトヲ得

第二十條 新聞紙ノ發行ヲ禁止シ若クハ停止シタルトキハ内務大臣ハ其新聞紙ノ發賣頒布ヲ禁シ其新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

第二十一條 外國ニ於テ發行シタル新聞紙ニシテ治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞乱スルモノト認ムルトキハ内務大臣ハ其新聞紙ノ内國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

第二十二條 陸軍大臣海軍大臣ハ特ニ命令ヲ發シテ軍隊軍艦ノ進退又ハ軍機軍略ニ關スル事項ノ記載ヲ禁スルコトヲ得

第二十三條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ公訴ヲ起ストキハ檢察官ハ假ニ其新聞紙ヲ差押フルコトヲ得裁判官ハ犯罪ノ情狀ニ依リ差押ヘタル新聞紙ヲ沒收スルコトヲ得

第二十四條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ訴訟ヲ起シタル原告ニ於テ其新聞紙ニ署名シタル編輯人ト實際主トシテ編輯事務ヲ擔

當スル者ニアラズシテ他ニ主任編輯人アルコトヲ証明シタル場合ニ於テハ裁判官ハ其署名シタル編輯人及實際ノ主任編輯人ヲシテ共ニ其責ニ當ラシムベシ

第二十五條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ誹毀ノ訴アル場合ニ於テ其私行ニ涉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ其人ヲ害スルノ惡意ニ出テズ專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ヲ證明スルコトヲ許スコトヲ得若其證明ノ確立ヲ得タルトキハ誹毀ノ罪ヲ免ズ其損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ

第二十六條 裁判確定ノ日ヨリ一週日以内ニ裁判費用及罰金ヲ完納セズ又ハ損害ヲ賠償セサルトキハ保證金ヲ以テ之ニ充ツベシ仍ホ足ラサルトキハ刑法徵収處分ニ依ル
保證金ヲ裁判費用賠償及罰金ニ充タルトキハ發行人ハ管轄廳東京府警視廳ノ通知ヲ得タル日ヨリ一週日以内ニ其缺額ヲ完納スベシ若シ

完納セサルトキハ其完納スルニ至ルマデ警視總監又ハ地方長官ニ於テ其發行ヲ差止ベシ

第二十七條 第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲サズ又ハ第六條第七條第十一條第一項第十二條ヲ犯シ又ハ保證金ヲ納ムベキ新聞紙ニシテ保證金ヲ納メズシテ發行シタルトキハ發行人ヲ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但詐僞ノ罪ヲ犯スモノハ罰發行人ニ同シ

第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサルトキハ發行人一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス第八條ノ末項ニ屬スル新聞紙ニシテ保證金ヲ納ムベキ新聞紙ノ事項ヲ記載シタルキハ編輯人罰前項ニ同シ

第二十八條 第十三條第十四條第十五條ニ違フトキハ編輯人ヲ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 第十六條第十七條第十八條ニ違フトキハ編輯人ヲ一月

以上六月以下ノ輕禁錮又ハ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 第二十一條ニ違ヒ發賣頒布ヲ爲ス者ハ罰前條ニ同シ

第三十一條 第二十二條ニ違フトキハ發行人編輯人ヲ一月以上二年

以下ノ輕禁錮又ハ貳拾圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 政體ヲ變壞シ朝憲ヲ紊亂セントスルノ論說ヲ記載シタ

ルトキハ發行人編輯人印刷人ヲ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ

五拾圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條ヲ犯ス者ハ其犯罪ノ用シタル器械ヲ沒收ス

第三十三條 猥褻ノ新聞紙ヲ發行スルトキハ發行人編輯人ヲ一月以

上六月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條 第十三條ノ場合ニ於テ私事ニ係ルモノハ被害者ノ告訴

ヲ待テ其罪ヲ論ス

第三十五條 此條例ヲ犯シタルモノニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數

罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第三十六條 此條例ニ關スル公訴ノ期間免除ハ六箇月トス

第三十七條 時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除ク

ノ外皆此條例ニ依ル

(一)官吏タル者私ニ新聞紙等ニ政務ヲ叙述スルヲ禁ス〔明治八年七月七

日大政官達十九號〕

(二)公文ヲ新聞紙ニ掲載スルヲ禁ス〔明治八年九月十二日大政官達第百五十

八號〕

(三)新聞紙條例 傍聽ヲ禁シタル訴訟ノ辨論記載方〔明治十九年六月二

十一日司法省訓令第十號檢事長檢事〕

新聞條例第三十三條ニ傍聽ヲ禁シタル訴訟ノ辨論ハ之ヲ記載ス

ルコトヲ得ストアルハ公判ノ半ヨリ傍聽ヲ禁シタル場合ト雖モ

總テ其訴訟ノ當日ノ辨論ヲ記載スルコトヲ得サル儀ニシテ裁判

官傍聽ヲ禁スルノ命令ヲ爲シタル時ヨリ以下ノ辨論ノミヲ指ス
 モノニ非ス右ハ往々疑義ヲ生シ候向モ有之趣ニ付此旨心得ヘシ
 (四)新聞紙ニ關スル諸屆書式ヲ定ム(明治二十一年一月二十六日內務省告示
 第一號)

○何新聞雜誌發行屆

- 一 題 號 何新聞
- 一 記載ノ種類 政治、法律、農工商業ノ類
- 一 發行ノ時期 毎日每週每月何回一箇年何回ノ類
- 一 發行所 府縣國郡區町村番地何社(社號ナキモノハ戶主ノ氏名)
- 一 印刷所 同
- 一 發行人 住所 氏名 何年何月生 本月何年何箇月

同

氏 名

同

一編輯人

冬部門ニ主任編輯人ヲ設クルトキハ茲ニ列記スヘシ

同

氏 名

同

一印刷人

右ハ新聞紙條例ヲ遵守シ年月日ヨリ發行致候ニ付保證金何圓(若ハ國立銀行ノ預リ手形公債証書ヲ以テ)一管轄廳ヘ納置候間此段御例申立候也
 (保證金ヲ納ムルニ及バサルモノ、例ハ左ノ如シ)
 右ハ新聞紙條例ヲ遵守シ年月日ヨリ發行致候間此段御屆申上候也

年 月 日

發行人

氏

名 印

內務大臣 某 殿

○何新聞改題屆

何新聞改題

一何新聞

右年月日ヨリ改題候間此段御届申上候也

年 月 日 發行人 氏 名 印

内務大臣某殿

○何新聞記載ノ種類變更届

一現今種類 政治法律農工商業其他何々

一變更種類 何々

右年月日ヨリ變更致候間此段御届申上候也

〔保証金ヲ納メズ發行シタルモノ更ニ保証金ヲ要スル種類ニ變更スルモノ、例ハ左ノ如シ〕

右年月日ヨリ變更致候ニ付保証金何圓〔若クハ國立銀行ノ預リ〕管轄

應へ納置候間此段御届申上候也

〔保証金ヲ納メ發行シタルモノ更ニ保証金ヲ要セサル種類ニ變更スルモノ、例ハ左ノ如シ〕

右年月日ヨリ變更致候ニ付是迄納置候保証金御下渡之儀ハ管轄
應へ可申出候間此段御届申上候也

年 月 日 發行人 氏 名 印

内務大臣某殿

○新聞發行人變更届

何新聞是迄何誰發行人ニ候處年月日ヨリ何誰ニ於テ新聞紙條例
ヲ遵守シ發行致候ニ付此段御届申上候也

〔發行人死去シ又ハ法律上ノ資格ヲ失ヒタルモノ、例ハ左ノ如シ〕

何新聞是迄何誰發行人ニ候處何月何日死去若クハ法律上ノ資格
ヲ失ヒ候ニ付何誰假發行人ノ名義ヲ以テ引續發行致居候處年月
日ヨリ何誰ニ於テ〔以下前例〕

年 月 日 舊發行人 氏 名 印

〔發行人死去ノキハ其遺族親戚等ト新發行人ト連署ス〕

新發行人 住所 氏 名 印
 何年何月生何年何箇月

內務大臣 某 殿

○何新聞編輯人(又ハ印刷人)變更屆

舊編輯人(又ハ舊印刷人) 氏 名

新編輯人(又ハ新印刷人) 住所 氏 名

何年何月生本月何年何箇月

右之通年月日ヨリ變更致候間此段御届申上候也

年 月 日 發行人 氏 名 印

內務大臣 某 殿

○何新聞發行時期變更屆

一何年何月何日發行第何號マテハ隔日〔若クハ毎月一回又ハ何々〕

一何年何月何日發行第何號ヨリ改メ毎日〔若クハ毎週又ハ何々〕

右之通變更致候間此段御届申上候也

年 月 日 發行人 氏 名 印

內務大臣 某 殿

○何新聞發行所變更屆〔印刷所變更屆書モ亦本例ニ依ル〕

一舊發行所 何社〔社號ナキモノハ戶主ノ氏名〕

府縣國郡區町村番地

一新發行所 何社〔社號ナキモノハ戶主ノ氏名〕

右之通年月日ヨリ變更致候間此段御届申上候也

年 月 日 發行人 氏 名 印

內務大臣 某 殿

(第四) ◎出版條例 (明治二十年十二月廿九日公布勅令第七十六號)

第一條 凡ソ機械舎密其他何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス文書圖書

ナ印刷シテ之ヲ發賣シ又ハ頒布スルヲ出版ト云ヒ其文書ヲ著述シ又ハ編纂シ若クハ圖畫ヲ作為スル者ヲ著作者ト云ヒ發賣頒布ヲ擔當スル者ヲ發行者ト云ヒ印刷ヲ擔當スル者ヲ印刷者ト云フ

第二條 新聞紙又ハ時々ニ發行スル雜誌ヲ除クノ外文書圖畫ノ出版ハ總テ此條例ニ依ルベシ但雜誌ニシテ專ラ學術技藝ニ關スル事項ヲ記載スルモノハ内務大臣ノ許可ヲ得テ此條例ニ依ルコトヲ得

第三條 文書圖畫ヲ出版スルトキハ發行ノ日ヨリ到達シ得ベキ日數ヲ除キ十日前製本三部ヲ添ヘ内務省ヘ届出ベシ

第四條 官廳ニ於テ文書圖畫ヲ出版スルトキハ其官廳ヨリ發行前製本三部ヲ内務省ニ送付スベシ

第五條 出版届ハ著作者又ハ其相續者及發行者連印ニテ之ヲ差出スベシ但非賣品ハ著作者ノミニテ届出ルコトヲ得著作者又ハ其相續者ヲ知ルベカラサルトキハ其由ヲ記シ發行者ヨリ差出スベシ

學校會社協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖畫ノ届ハ其學校會社等ヲ代表スル者發行者ト連印シテ之ヲ差出スベシ

第六條 文書圖畫ノ發行者ハ文書圖畫ノ販賣ヲ以テ營業トスル者ニ限ル但著作者又ハ其相續者ハ發行者ヲ兼ヌルコトヲ得

第七條 文書圖畫ヲ印刷スル者ハ其發行ト否トヲ問ハズ印刷ノ年月日及印刷者ノ氏名住所ヲ記載シ其發行ニ係ルモノハ發行者ノ氏名住所ヲ併セテ記載スベシ

第八條 社則塾則引札諸藝ノ番付普通ノ書式アル諸種ノ用紙又ハ証書ノ類ハ第三條第六條ニ據ルヲ要セス

第九條 文書圖畫ノ冊號ヲ逐ヒ順次ニ出版スル者ハ其都度第三條ノ手續ヲ爲スベシ但雜誌ノ類ニ在テハ内務大臣ノ許可ヲ經テ其手續ヲ省略スルヲ得

第十條 一タヒ出版届ヲ爲シタル文書圖畫ノ再版ハ出版届ヲ要セス

例 條 版 出

ト雖凡若シ改正増減シ又ハ註釋附録繪圖等ヲ加ヘタルモノハ仍ホ
第三條ニ依ルベシ

第十一條 演説若クハ講義ヲ筆記シテ一部ノ書ト爲ストキハ演説者
若クハ講義者ヲ以テ著作者トス但演説者若クハ講義者ノ許諾ヲ經
スシテ出版シタルモノニ關シテハ其演説者若クハ講義者ハ著作ノ
責ニ任セス

他人ノ講義又ハ公然ナラサル演説ハ其講義者又ハ演説者ノ許諾ヲ
經ルニ非レバ其筆記ヲ出版スルコトヲ得ズ但本項ニ違フ者ハ版權
條例ニ依リ其責ニ任セシム

第十二條 數人ノ著作若クハ數人ノ講義演説ヲ編纂シテ一部ノ書ト
爲スモノハ編纂者ヲ著作者ト見做スベシ
前條第一項ノ但書及第二項ハ本條ニ適用スベシ

第十三條 翻譯ハ翻譯者ヲ以テ著作者ト見做スベシ但翻譯トハ漢文

ヲ延譯スルモノヲモ包含ス

第十四條 學校會社協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖
畫ハ其出版届ヲナス者ヲ以テ著作者ト見做スベシ

第十五條 公ニセサル官ノ文書及上書建白請願書ハ當該官廳ノ許可
ヲ得ルニ非サレバ詳畧ニ拘ハラズ之ヲ出版スルコトヲ得ズ
官廳ノ議事及法律ニ依リ傍聽ヲ禁シタル公會ノ議事ハ詳畧ニ拘ラ
ズ之ヲ出版スルコトヲ得ズ

第十六條 治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞乱スルモノト認ムル文書圖書
ヲ出版シタルトキハ内務大臣ニ於テ其發賣頒布ヲ禁シ其刻版及印
本ヲ差押ユルコトヲ得

第十七條 外國ニ於テ印刷シタル文書圖書ニシテ治安ヲ妨害シ又風
俗ヲ壞乱スルモノト認ムルトキハ内務大臣ハ其文書圖書ノ内國ニ
於ケル發賣頒布ヲ禁シ其印本ヲ差押フルコトヲ得

例 條 版 出

第十八條 軍事ノ機密ニ關スル事項ヲ記載スル文書圖書ヲ出版スルコトヲ得ズ

第十九條 重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ付セサル以前ニ於テ之ヲ出版スルコトヲ得ズ

第二十條 刑律ニ觸レタル罪犯ヲ曲庇スルノ論說ヲ出版スルコトヲ得ズ

刑事ノ被告人又ハ刑律ニ觸レタル犯罪人ヲ救護シ又ハ賞恤スル爲ニスル文書ヲ出版スルコトヲ得ズ

第二十一條 第三條ノ届出ヲ爲サズシテ文書圖書ヲ出版シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 發行者自己ノ氏名住所又ハ印刷者ノ氏名住所又ハ出版ノ年月日ヲ記載セサル文書圖書ヲ發行シタルトキハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ其之ヲ記載スルモ實ヲ以テセサルモノハ一月

以上六月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條ヲ犯ス者罰前項ニ同シ

第二十三條 印刷者其氏名住所ヲ其印刷スル所ノ文書圖書ニ記載セス若クハ記載スト雖モ實ヲ以テセサルモノハ罰前條ニ同シ

第二十四條 政体ヲ變壞シ朝憲ヲ紊亂セントスルノ文書ヲ出版シタルトキハ著作者發行者印刷者共犯ヲ以テ論シ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五拾圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

圖書ニシテ其目的前項ニ同キモノハ罰前項ニ同シ

第二十五條 猥褻ノ文書圖書ヲ出版シタルトキハ著作者發行者共犯ヲ以テ論シ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 文書圖書ヲ寫眞トナシ因テ第十八條第二十四條第二十五條ヲ犯スモノハ各本條ニ依テ處分ス

第二十七條 本條例ニ依リ出版ヲ禁セラレタル文書圖書ヲ出版シタルトキハ著作權者發行權者共犯ヲ以テ論シ一月以上二年以下ノ輕禁錮又ハ貳拾圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

其發賣頒布ヲ禁セラレタル文書圖書ヲ發賣頒布スルトキハ發行權者又ハ發賣頒布者罰前項ニ同シ但其未タ發賣頒布セサル文書圖書ハ之ヲ沒収ス

第二十八條 第二十四條第二十五條第二十七條ノ場合ニ於テ刻版及印本ハ檢察官ニ於テ假ニ之ヲ差押フルコトヲ得差押フル所ノ刻版及印本ハ裁判ノ確定ヲ待テ無罪ナレハ本主ニ還付シ有罪ナレハ沒収ス

第二十九條 前條ノ差押ヲ爲ストキハ製本ノ體裁ニヨリ其差押フベキ部分ト他ノ部分ト分割シ得ルニ於テハ之ヲ分割スルヲアルベシ

第三十條 他人ノ講義演說ヲ筆記若クハ編纂シ又ハ他人ノ著作ヲ編

纂シタル文書圖書ヲ出版シ第二十四條第二十五條ヲ犯シタル場合ニ於テ講義者演說者若クハ著作權者ニシテ其出版ヲ承諾シタルモノナルトキハ筆記者若クハ編纂者ト同シク其罪ヲ論ス

第三十一條 文書圖書ヲ出版シ因テ誹毀ノ訴ヲ受ケタル場合ニ於テ其私行ニ涉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ其人ヲ害スルノ惡意ニ出テズ專ラ公益ノ爲メニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ヲ證明スルコトヲ許スコトヲ得若シ其証明ノ確立ヲ得タルトキハ誹毀ノ罪ヲ免ス其損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ

第三十二條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヰズ

第三十三條 此條例ニ關スル公訴ノ期滿免除ハ二年トシ其犯罪ト認メラレタル文書圖書ヲ最後ニ發賣頒布シタル時ヨリ起算ス其發賣頒布セサルモノハ其最後ニ印刷シタル時ヨリ起算ス

第三十四條 文書圖畫ヲ印刷スルトキハ直ニ發賣頒布セスト雖其目的發賣頒布ニ在ル者ハ總テ此條例ニ依ル

(第五) ◎ 版權條例 (明治二十二年十二月二十九日公布勅令第七十七號)

第一條 凡ソ文書圖畫ヲ出版シテ其利益ヲ專有スルノ權ヲ版權ト云

ヒ版權所有者ノ承諾ヲ經ズノ其文書圖畫ヲ翻刻スルヲ偽版ト云フ

第二條 出版條例ニ依リ文書圖畫ヲ出版スル者ハ總テ此條例ニ依リ其版權ノ保護ヲ受ルコトヲ得

第三條 版權ノ保護ヲ受ント欲スル者ハ發行前製本六部ノ定價ヲ添ヘ版權登錄ヲ内務省ニ願出ベシ

第四條 官廳ニ於テ文書圖畫ヲ出版シ版權ノ登錄ヲ得ント欲スルトキハ其由ヲ内務省ニ通知スベシ

第五條 版權登錄ノ文書圖畫ニハ其保護年限間ハ版權所有ノ四字ヲ

記載スベシ其記載セサル者ハ登錄ノ効ヲ失フモノトス

第六條 内務省ニ於テハ版權登錄簿ヲ備ヘ置キ登錄ノ願出アル毎ニ之ヲ登錄シ登錄証書ヲ下付スベシ

登錄ヲ經タル文書圖畫ハ内務省ニ於テ時々之ヲ官報ニ揭示スベシ

第七條 版權ハ著作者ニ屬シ著作者死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス

講義若クハ演說ヲ筆記シテ一部ノ書ト爲シタルモノ、版權ハ講義者若クハ演說者ニ屬シ若シ筆記者ニ於テ講義者若クハ演說者ノ許諾ヲ經テ出版スルトキハ筆記者ニ屬シ筆記者死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス

翻譯書ノ版權ハ翻譯者ニ屬シ翻譯者死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス

官廳學校會社協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖畫ノ

版權ハ其官廳學校等ニ屬スルモノトス
 數人ノ著作若クハ數人ノ講義演說ヲ編纂シタル文書圖書ノ版權ハ
 編纂者ニ屬シ編纂者死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス但
 編纂者ト原著作者講義者演說者又ハ其相續者トノ關係ハ相互ノ約
 束ニ依ル

第八條 版權ハ制限ヲ附シ若クハ附セズシテ賣渡シ讓渡スコトヲ得
 第九條 版權登錄證書ヲ毀損又ハ紛失シタルトキハ事由ヲ記シ其再
 度下付ヲ内務省ニ願出ルコトヲ得但手數料トシテ金五拾錢ヲ納ム
 ハシ

第十條 版權保護ノ年限ハ著作ノ終身ニ五年ヲ加ヘタルモノトス
 若シ版權登錄ノ月ヨリ死亡ノ月マデヲ計算シ之ニ五年ヲ加ヘ仍ホ
 三十五年ニ足ラサル時ハ版權登錄ノ月ヨリ三十五年トス
 數年ノ合著ニ係ルモノ、版權年限ハ最後ニ死亡シタル者ニ據リテ

計算ス

官廳又ハ學校會社協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖
 畫并著作死亡ノ後ニ出版スル文書圖書ノ版權年限ハ版權登錄ノ
 日ヨリ計算シ三十五年トス

第十一條 冊號ヲ逐ヒ順次ニ出版スル文書圖書ノ版權年限ハ各號毎
 ニ其出版ノ日ヨリ起算ス但其都度第三條ノ手續ヲナスベシ
 雜誌ノ類ニ在テハ内務大臣ノ許可ヲ得テ第三條ノ手續ヲ省畧スル
 コトヲ得

第十二條 版權ノ保護ハ其文書圖書ヲ改正増減シ又ハ註解附録繪圖
 等ヲ加ヘ又ハ製本ノ式ヲ改メ又ハ冊數ヲ分合スルガ爲メ變更スル
 コトナカルベシ

第十三條 特ニ世ニ有益ナル文書圖書ニシテ版權年限間ノ利益其著
 作出版ノ勞力ト費用トヲ償ハザルノ事情アルモノニハ版權所有者

ノ願出ニ依リ内務大臣ニ於テ仍ホ十年間版權保護ノ期限ヲ延バス
コトアルベシ

第十四條 文書圖書ノ版權年限中死亡シ他人ニ於テ其版權相續者ナ
キコトヲ確信シ之ヲ出版セント欲スルハ其由ヲ官報及東京ノ四
社以上ノ重ナル新聞紙并其所有者住居地ノ新聞紙ニ七日以上廣告
シ最終ノ廣告日ヨリ六箇月内ニ版權相續者ノ出テサルトキハ内務
大臣ノ許可ヲ受ケ之ヲ出版シ版權ヲ繼續スルコトヲ得

著作者又ハ相續者ヲ知ルベカラサル著作ニシテ未ダ出版セサルモ
ノ亦前項ノ手續ニヨリ出版シ版權ノ保護ヲ受クルコトヲ得

第十五條 新聞紙又ハ雜誌ニ於テ二號以上ニ涉リ記載シタル論說記
事又ハ小説ハ其編輯者ノ承諾ヲ得ルニアラサレバ刊行ノ月ヨリ二
年内ニ之ヲ編纂シテ一部ノ書ト爲シ出版スルコトヲ得ズ
其二年ヲ經ルト雖モ已ニ一部ノ書ト爲シ版權登錄ヲ經タルモノハ

原文ニ就テ更ニ編纂スルコトヲ得ズ

第十六條 版權所有者ノ文書圖書ヲ僞版シタル者ハ其版權所有者ニ對
シ損害賠償ノ責ニ任スベシ其寫本ヲ發賣シテ版權ヲ犯ス者亦同シ
第十七條 僞版ノ訴アリタルトキハ裁判官ハ出訴者ノ情願アルニ於
テハ假ニ其發賣頒布ヲ差止ムルコトヲ得但審理ノ未僞版ニアラズ
ト判決セラレタルトキハ出訴者ニ於テ其差止ヨリ生スル損害賠償
ノ責ニ任スベシ

第十八條 僞版ニ關スル損害賠償ノ責ハ僞版者ノ相續人ニ及ブモノ
トス

第十九條 版權所有者ノ承諾ヲ經ズノ版權所有者ノ文書圖書ヲ翻譯シ
増減シ註解附録繪圖等ヲ加ヘ若クハ其未ダ完結セサル部分ヲ續成
シテ出版スル者及本條例第十五條ニ違フ者ハ僞版ヲ以テ論ス
他人ノ講義又ハ演說ヲ筆記シ其許諾ヲ經ズシテ出版スル者亦前項

ニ同シ

第二十條 翻譯書ノ版權ハ其翻譯者ニ屬スト雖モ其ノ原書ニ就キ別ニ翻譯スル者ニ向ヒ偽版ノ訴ヲ爲スコトヲ得ズ但其既ニ出版スル所ノ翻譯ヲ標竊シタルコトヲ証明スルモノハ此限ニアラズ

第二十一條 世人ヲ欺瞞スル爲メ故テニ版權所有ノ文書圖書ノ題號ヲ冒シ或ハ摸擬シ又ハ氏名社號等ノ類似シタル者ヲ湊合シテ他人ノ版權ヲ妨害スル者ハ偽版ヲ以テ論ス

第二十二條 著作者又ハ其相續者ノ承諾ヲ經ズシテ未ダ出版セサル文書圖書ヲ出版シ又ハ非賣ノ文書圖書ヲ翻刻スル者亦偽版ヲ以テ論ス

第二十三條 文書圖書ヲ寫眞ト爲シ因テ其版權ヲ犯ス者ハ偽版ヲ以テ論ス

第二十四條 内國ニテ版權所有ノ文書圖書ヲ外國ニ於テ偽版シタル

モノヲ輸入販賣スル者ハ偽版ヲ以テ論ス

第二十五條 偽版ノ訴アリテ其偽版シタルヤ否ヲ決シ難キトキハ其訴ヲ受ケタル裁判所ニ於テ三名以上ノ鑑定者ヲ選ヒ之ヲ鑑定セシムルコトアルヘシ

第二十六條 鑑定ニ關スル損害賠償ノ責ハ其ノ原書ノ版權年限終ルノ後三年ヲ以テ期滿得免ノ期トス

第二十七條 偽版者及情ヲ知ルノ印刷者販賣者ハ一月以上一年以上以下ノ重禁錮若クハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

偽版ニ係ル刻版及印本ハ何人ノ手ニアルヲ問ハス之ヲ沒收シ其既ニ販賣シタルモノハ其賣得金ヲ沒收シテ併セテ被害者ニ下附ス

第二十八條 版權ヲ所有セサル文書圖書ト雖モ之ヲ改竄シテ著作者ノ意ヲ害シ又ハ其表題ヲ改メ又ハ著作者ノ氏名ヲ隱匿シ又ハ他人

ノ著作ト詐稱シテ翻刻スルヲ得ス違フモノハ二圓以上百圓以下ノ
 罰金ニ處ス但著作者又ハ發行者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
 第二十九條 第三條ノ手續ヲナサスシテ版權所有ノ字ヲ記載シタル
 文書圖書ヲ出版スル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第三十條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱
 發ノ例ヲ用ヒス

第三十一條 此條例ニ關スル公訴ノ期滿免除ハ二年トシ其犯罪ト認
 メラレタル文書圖書ヲ最後ニ發賣頒布シタル時ヨリ起算ス
 第三十二條 現行ノ出版條例ニ據リ免許ヲ得タル版權ノ年限ハ現行
 條例ニ據リ計算スルモノトス

● 出版版權願屆書式〔明治二十一年一月二十四日內務省令第一號〕

○ 出版御届

一書名 全何冊(枚)又ハ何冊(枚)ノ内何冊(枚) 自第何號 至第何號
 右何誰著述(編纂、演說、講義、翻譯)何々ノ事ヲ記載(論述)セシモノニテ今
 般出版候條製本三部相添此段御届申上候也

府 郡 町 何番地
 縣 區 村 何番地

年 月 日

發行者 氏 名 印

同上

著作(相續者)氏 名 印

內務大臣(尊)何誰殿

○ 再版御届

一書名 全何冊(枚)又ハ何冊(枚)ノ内何冊(枚) 自第何號 至第何號

右何誰著述(編纂、演說、講義、翻譯)ノ書ニシテ何年何月何日出版セシ處
 改正(増減、注解、附錄、繪圖等)相加ヘ今般再(三)版候條製本三部相添此段
 御届申上候也

年 月 日

發行者

氏

名 印

住 所

同 上

著作者(相續者)氏

名 印

內務大臣(爵)何誰殿

○版權登錄願

一書名

全何冊(枚)又ハ何冊(枚)ノ内何冊(枚)

自第何號
至第何號

右今般出版致候條版權登錄被下度六部ノ定價金何圓錢大藏省金庫局(何々國庫出納本支)所預證書相添此段相願候也

住 所

年 月 日

版權所有者 氏

名 印

內務大臣(爵)何誰殿

○學術(技藝)雜誌出版條例ニヨリ出版(并手續省署)願

一書名

右專ラ何々ノ學術(技藝)ニ關スル事項ヲ記載シ毎月何回(又ハ何々ノ日ヲ以テ)發行致スヘキモノニ候處出版條例ニ依リ出版致シ且同條例第三條ノ日限ニ不拘出版ノ都度御届ニ不及發行前製本ノミ相納候様致度此段相願候也

住 所

年 月 日

發行者 氏

名 印

同 上

編輯者 氏

名 印

內務大臣(爵)何誰殿

○學術(技藝)雜誌版權登錄手續省署願

一書名

右出版條例ニ依リ出版致度旨今般何年何月何日御許可ヲ得候處自

第何號至第何號何冊分一時版權登錄被下度各號六部ノ定價金何圓
錢大藏省金庫局何々國庫出納本(支)所預證相添此段相願候也

年 月 日

發行者

氏

名 印

住所

同上

編輯人

氏

名 印

內務大臣(尊)何誰殿

◎參照

明治二十年十二月二十九日公布

勅令第七十八號

同

勅令第七十九號

明治十七年十月三十日布達

大政官第六十六號

明治二十一年一月二十四日省令

內務省令第一號

同

四月二日省令

同 第三號

同

三月十九日告示

同 告示第二號

同 十一年十二月二十一日省達

同 省達乙第九十號

同 十二年二月二十一日布達

同 文部省布達第二號

同 十四年三月十日布達

同 布達第一號

同 十五年十月十八日達

同 內務省達乙第五十五號

(第六)◎特許條例 (明治二十一年十二月二十日公布敕令第八十四號)

第一條 新規有益ナル工術機械製造品及合成物ヲ發明シ又ハ工術機
械製造品及合成物ノ新規有益ナル改良ヲ發明シタル者ハ此條例ニ

依リ特許ヲ受クルコトヲ得

特許トハ發明者ニ他人ヲシテ其承諾ヲ經スシテ前項ノ發明ヲ製作
使用又ハ販賣セシメサル特權ヲ許スコトヲ謂フ

第二條 左ニ掲クル發明ハ特許ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

特許條例

一 飲食物嗜好物

二 醫藥並其調合法

三 特許出願以前公ニ用ヒラレタルモノ但試験ノ爲メ公ニ知ラレタルコト二年以内ノモノハ此限ニ在ラス

第三條 特許ヲ受ケント欲スルモノハ一發明毎ニ發明ノ明細書及必要ノ圖面ヲ添ヘ農商務大臣ニ出願スヘシ但其願書明細書及圖面ハ特許局ニ差出スヘシ

第四條 特許ヲ出願スル者アルトキハ特許局長ハ特許局審査官ヲシテ其發明ヲ審査セシメ特許ヲ與フヘシト査定シタルモノハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ特許原簿ニ登録シ特許証下付ノ手續ヲ爲スヘシ
第五條 特許証ハ農商務大臣之ニ署名シ特許局長之ニ副署シ明細書及必要ノ圖面ヲ添ヘ之ヲ下付スルモノトス

第六條 特許ノ年限ハ五年十年及十五年ノ三種ト爲シ原簿登録ノ日

ヨリ起算ス

第七條 公益ノ爲メ普及ヲ要スルモノ又ハ軍事上必要ナルモノ若クハ秘密ヲ要スルモノト認メタル發明ニハ農商務大臣ハ特許ニ制限ヲ付シ若クハ特許ヲ與ヘス又ハ既ニ與ヘタル特許ヲ制限シ若クハ之ヲ取消スコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テ農商務大臣ハ相當ト認ムル報酬ヲ發明者又ハ特許証主ニ與フルモノトス

第八條 他人ノ特許發明ヲ改良シ其改良發明ノ特許ヲ受ケント欲スル者ハ其特許証主ニ協議シ原發明ニ改良發明ヲ合セテ使用スルノ承諾ヲ經第三條ニ依リ出願スヘシ

特許証主其承諾ヲ拒ミタルトキハ其旨ヲ願書ニ記載シテ出願スルコトヲ得此場合ニ於テハ農商務大臣ハ原發明ヲ改良發明ニ合セテ使用スルノ特許ヲ改良發明者ニ與フルコトヲ得

特許條例

改良發明者前項ノ特許ヲ受ケタルトキハ原特許証主ニ農商務大臣ノ相當ト認ムル報酬ヲ與フル義務アルモノトス

第九條 特許ヲ受ケタル者又ハ之ヲ受ケントスル者死亡シタルトキハ其權利ハ相續者ニ屬スルモノトス

第十條 特許ヲ受ケタル發明ト雖モ左ニ掲クルモノハ其特許ヲ無効トス

一 新規又ハ有益ナラサリシコトヲ發見セラレタルモノ

二 第二條ニ該ルコトヲ發見セラレタルモノ

三 發明ヲ實施スルニ必要ナル事項ヲ故意ニ明細書ニ記載セサリシコトヲ發見セラレタルモノ

四 發明ヲ實施スルニ必要ナラサル事項ヲ故意ニ明細書ニ記載セシコトヲ發見セラレタルモノ

第十一條 特許局審査官特許出願ノ發明ヲ審査シ特許ヲ與フヘカラ

スト査定シタルトキハ特許局長ハ其査定書ヲ出願人ニ送付スヘシ

第十二條 前條ノ査定ニ服セサル者ハ特許局ニ不服理由書ヲ差出シ再審査ヲ請求スルコトヲ得

再審査ヲ請求スル者アルトキハ特許局長ハ特許局審査官ナシテ更ニ之ヲ審査セシムヘシ審査官其不服理由ヲ不當ト査定シタルトキハ其査定書ヲ不服者ニ送付スヘシ

第十三條 特許局審査官特許出願ノ發明他人ノ特許出願中ノ發明ト

抵觸シ又ハ他人ノ特許發明ト抵觸スト査定シタルトキハ特許局長ハ其抵觸ノ箇所ヲ關係人ニ告知シ其發明ニ關スル始末書ヲ差出サシムヘシ

關係人始末書ヲ差出シタルトキハ特許局長ハ之ヲ特許局審査官ニ付シテ發明ノ先後ヲ審査セシ其査定書ヲ關係人ニ送付スヘシ

第十四條 前條ノ場合ニ於テ既ニ與ヘタル特許証ヲ取消シ出願ノ發

明ニ特許ヲ與フルトキハ其特許年限ハ前特許証登録ノ日ヨリ起算シ其年限ニ超フルヲ得ス

第十五條 第十二條ノ再査定及第十三條ノ査定ニ服セサルモノハ特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得

第十六條 特許証主其權利ノ他特許証主ノ權利ト撞着スルコトヲ發見シタルトキハ其權利ヲ確定スル爲メ特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得

第十七條 特許ヲ受ケタル發明第十條ニ該ルコトヲ發見シタル時ハ其特許ヲ無効トスル爲メ特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得

第十八條 審判ヲ請求スル者アルトキハ特許局ニ於テ局長ハ審判長ハ二人以上ノ審判官ト共ニ之ヲ審判スヘシ

第十九條 特許局ノ審判ニ對シテハ不服ヲ申立又裁判所ニ訴フルコトヲ得ス

第二十條 第十三條ノ審査及特許局ノ審判ニ關シ關係人ニ於テ證據ヲ要スルトキハ其請求ニ依リ特許局長ハ其集取ヲ治安裁判所ニ囑托スルコトヲ得

第二十一條 第十六條第十七條ニ係ル費用ハ民事訴訟入費ノ例ニ依リ負擔スヘキモノトス

第二十二條 特許ハ制限ヲ付シ若シクハ付セズシテ賣與讓與シ若クハ共有トナシ又ハ書入トナスコトヲ得此場合ニ於テハ特許局ニ請求シ契約ノ登録ヲ受ケサル契約ハ第三者ニ對シ法律上其効ナキモノトス

第二十三條 特許局ノ官吏ハ在職中特許ヲ出願シ又ハ特許ヲ新ニ有スルコトヲ得ズ但相續ニ由リ特許ヲ新ニ有スルハ此限ニ在ラズ

第二十四條 特許ハ左ノ場合ニ於テ其効ヲ失フモノトス
一 特許証主相當ノ事故ヲクシテ特許證ノ日附ヨリ三年ヲ經テ其

發明ヲ實施公行セサルトキ

二 特許證主相當ノ事故ナクシテ其發明ノ實施公行ヲ三年間中止シタルトキ

三 特許證主其特許品ヲ外國ヨリ輸入シテ之ヲ販賣シ又ハ自己ノ權利ヲ侵スベキ物品ヲ外國ヨリ輸入シテ販賣スル者アルコトヲ知リテ之ヲ默許シタルトキ

第二十五條 特許證主特許證ヲ毀損若クハ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ再下付ヲ出願スルコトヲ得

第二十六條 特許證主其明細書若クハ圖面ノ不完全ナルコトヲ發見シタルトキハ特許ノ効力ヲ全クスル爲メ改訂明細書若クハ圖面ヲ添ヘ特許證ノ改訂ヲ出願スルコトヲ得但其發明ノ要部ニ變更ヲ生スルモノハ此限ニ在ラズ

第二十七條 特許證主其明細書中ニ自己ノ發明ニアラサル事項ヲ誤

テ自己ノ發明トシテ記載セシコトヲ發見シタルトキハ其削除ヲ出願スルコトヲ得

第二十八條 第二十六條第二十七條ニ依リ出願スルモノアルトキハ特許局長ハ其願書ヲ特許局審査官ニ付シテ審査セシムベシ前項ノ場合ニ於テ特許局審査官ノ査定ニ服セサル者ハ第十二條ニ依リ再審査ヲ請求スルコトヲ得

第二十九條 特許證主ハ其物品ニ農商務大臣ノ定メタル特許標記ヲ爲スベシ

第三十條 特許ニ關シ出願又ハ請求スル者ハ左ノ手数料ヲ納ムベシ
一 特許ヲ出願スルトキ 一 發明毎ニ金五圓
二 特許ノ賣與讓與共有又ハ書入契約ノ登錄ヲ請求スルトキ 一 發明毎ニ金三圓

三 特許證ノ再下付ヲ出願スルトキ證書一枚毎ニ金壹圓

四 特許證ノ改訂又ハ明細書中ノ削除ヲ出願スルトキ
 一發明毎ニ金五圓

第三十一條 特許證又ハ改訂特許證ヲ受クル者ハ一證書毎ニ左ノ區別ニ從ヒ特許料ヲ納ムベシ

一 五年ノ特許 金拾圓

二 十年ノ特許 金拾五圓

三 十五年ノ特許 金貳拾圓

第三十二條 特許局ハ時々特許發明ノ明細書及特許公報ヲ印刷シ衆庶ノ縦覽ニ供スベシ其請求者アルトキハ相當代價ヲ以テ之ヲ拂下クルコトヲ得

第三十三條 特許ニ關スル書類ノ謄本又ハ圖面ノ調製ヲ要スル者ハ特許局ニ之ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ相當ノ手数料ヲ納

ムベシ

第三十四條 特許ヲ侵シタル者ハ其特許証主ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スベシ

第三十五條 前條損害賠償ノ責ハ三年ヲ以テ期滿免除ノ期トス

第三十六條 他人ノ特許品ヲ偽造シテ使用若クハ販賣シタル者又ハ請ヲ知り偽造品ヲ使用若クハ受託販賣シタル者又ハ他人ノ特許工術ヲ竊用シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮又ハ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

特許証主ノ權利ヲ犯スベキ物品ナルコトヲ知り之ヲ外國ヨリ輸入シテ使用若クハ販賣シタル者又ハ情ヲ知り其輸入シタル物品ヲ使用若クハ受託販賣シタル者ハ罰前項ニ同シ

第三十七條 前條ノ場合ニ於テハ其犯罪ノ物件ヲ沒収シテ特許証主ニ給付シ其既ニ賣捌タルモノハ代價ヲ追徴シテ之ヲ給付ス

特許條例

第三十八條 詐偽ノ所爲ヲ以テ特許証ヲ受ケタル者ハ特許ヲ受ケサル物品ニ特許標記若クハ之ニ類似シタル標記ヲ爲シテ販賣シタル者又ハ情ヲ知リテ其物品ヲ受托販賣シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條 第三十六條ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス前項ノ場合ニ於テ告訴人ノ請求ニ依リ裁判官ハ假ニ其告訴ニ係ル物品ノ使用若クハ販賣ヲ差止ムルコトヲ得

第四十條 特許證主其特許品ニ第二十九條ノ特許標記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ告訴又ハ要價ヲ訴ヲ爲スコトヲ得ズ

第四十一條 被告人特許ノ無効タルコトヲ以テ答辨セント欲スルトキハ其旨ヲ裁判所ニ申告シ其日ヨリ三十日以内ニ特許局ニ第十七條ノ審判ヲ請求スベシ此場合ニ於テ裁判所ハ特許局ノ審判終結マデ其裁判ヲ中止スベシ

第四十二條 此條例ヲ犯シタルモノニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒズ

第四十三條 此條例施行ノ細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第四十四條 此條例ハ明治二十二年二月一日ヨリ施行ス

第四十五條 明治十八年四月第七號布告專賣特許條例施行ノ日ヨリ廢止ス但專賣特許ハ此條例ニ依テ受ケタル特許ト同一ノ効アルモノトス

專賣特許出願ノ此條例施行ノ日ニ於テ處分ヲ終ラサルモノハ此條例ニ依リ處分ス

(一)特許條留意匠條例商標條例ノ特許料手数料ハ登記印紙ヲ以テ納メシム(明治二十一年十二月二十五日閣令第二十三號)

(二)特許條例施行細則(明治二十二年一月四日農商務省令第一號)

(三)特許願書式(同上)

特許條例

○特許願
 一何々〔發明ノ名稱〕
 右ハ別紙明細書ニ記載スル通ノ工術器械製造品合成物ニシテ私共ノ發明ニ有之特許條例ニ觸レサルモノト確信候間何箇年ノ特許相受度此段相願候也

年月日 發明者 住所 氏 名 印

〔二名以上ナルキハ各署名捺印スベシ以下總テ此ノ例ニヨル〕

農商務大臣氏名殿

○特許願 〔發明者他人ト連名ノ特許書ヲ受ケントシテ特許ヲ願出ルトキ〕

一何々〔發明ノ名稱〕

印紙

右ハ別紙明細書ニ記載スル通ノ工術機械製造品合成物ニシテ私共ノ發明ニ有之特許條例ニ觸レサルモノト確信候間何箇年ノ特許

年月日 發明者 住所 氏 名 印

農商務大臣氏名殿

○特許願 〔發明者他人ノ記名ニテ特許証ヲ受ケントシテ特許ヲ願出ルトキ〕

一何々〔發明ノ名稱〕

印紙

右ハ云々同上尤特許證ノ儀ハ何某〔本籍ヲモ記スベシ〕ノ記名ニテ下付相成度此段相願候也

年月日 發明者 住所 氏 名 印

農商務大臣氏名殿

○特許願 〔他人ノ特許發明ヲ改良シテ特許ヲ願出ルトキ〕

一何々ノ改良〔原發明ノ名稱〕

印紙

右ハ別紙明細書ニ記載スル通何某所有第何號特許証ノ何々〔原發明ノ名稱〕ノ發明ニ就キ私私共ニ於テ改良ヲ加ヘ候モノニシテ特許條例ニ觸レサルモノト確認候間何箇年ノ特許相受度特許証主ノ承諾書特許証主ノ承諾ヲ經ル能ハサルニ付其事由書ヲ添ヘ此段相願候也

年月日

發明者 住所 氏名 印

農商務大臣氏名殿

○特許願

一何々〔發明ノ名稱〕

印紙

右ハ亡何某ノ發明ニ係リ私相續候所別紙明細書ニ記載スル通ノ工術機械製造品合成物ニシテ特許條例ニ觸レサルモノト確信候間何箇年ノ特許相受度此段相願候也

住所

發明者 亡何某相續者

年月日

特許願人 氏名 印

農商務大臣氏名殿

○特許證再下付願

一第何號特許證

印紙

一何々〔發明ノ名稱〕

一發明者氏名

右私共所有特許證何々〔事由ヲ記スベシ〕ニ依リ毀損〔亡失〕候ニ付特許證再下付相成度此段相願候也

住所

年月日

特許證主 氏名 印

農商務大臣氏名殿

○特許證改訂願

一第何號特許證

一何々發明ノ名稱

一發明者氏名

印紙

右私私共所有特許證附屬ノ明細書〔圖面〕中何々〔事由ヲ記スベシ〕ノ爲メ特許

効力ヲ全クシ難キニ付別紙之通改訂致度尤之レガ爲メ發明ノ要部

ニ變更ヲ生ズル儀無之候間改訂特許證下付相成度別紙明細書改訂

圖面并ニ現特許證及付屬明細書〔圖面〕相添此段相願候也

年月日

特許證主住所

氏

名

印

農商務大臣氏名殿

○特許賣與〔讓與共有又ハ書入〕登錄請求書

一第何號特許證

印紙

一何々發明ノ名稱

一發明者氏名

右私私共所有特許ヲ別紙約定書之通賣與〔讓與共有又ハ書入〕候間登錄相成度約定書相添此段請求候也

住所

年月日

特許証主住所

氏

名

印

住所

買受讓與共有書入願人氏

名

印

特許局長氏名殿

(第七) ◎意匠條例 (明治二十一年十二月二十日公布勅令第八十五號)

第一條 工業上ノ物品ニ應用スベキ形狀摸樣若クハ色彩ニ係ル新規

ノ意匠ヲ按出シタル者ハ此條例ニ依リ其意匠ノ登錄ヲ受ケ之ヲ專

用スルコトヲ得

第二條 左ニ掲クル意匠ハ登録ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

一 風俗ヲ害スベキモノ

二 登録出願以前公ニ知ラレ又ハ公ニ用ヒラレタルモノ

第三條 意匠ノ登録ヲ受ケント欲スル者ハ一意匠毎ニ明細書及圖面ヲ添ヘ農商務大臣ニ出願スベシ但其願出明細書及圖面ハ特許局ニ差出スベシ

第四條 意匠ノ登録ヲ出願スルモノアルトキハ特許局長ハ特許局審査官ヲシテ其意匠ヲ審査セシメ登録ヲ許スベシト査定シタルモノハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ意匠原簿ニ登録シ其登録証下付ノ手續ヲ爲スベシ

第五條 登録証ハ農商務大臣之ニ署名シ特許局長之ニ副書シ明細書及圖面ヲ添ヘ之ヲ下付スルモノトス

第六條 意匠専用ノ年限ハ三年五年七年及十年ノ四種ト爲シ原簿登録ノ日ヨリ記算ス

第七條 意匠ノ専用ハ農商務大臣ノ定ムル物品類別ニ於テ出願人ノ指定シタル物品ニ限ルモノトス

第八條 二人以上同一又ハ類似意匠ノ登録ヲ出願スル者アルトキハ願書日付ノ先ナルモノヲ登録ス其日付同キモノハ共ニ之ヲ登録セサルモノトス但出願人協議ノ上連名ニテ其登録ヲ出願スルトキ又ハ其出願ヲ取消ス者アリテ出願者一人トナリタルトキハ此限ニ在ラズ

第九條 意匠ノ登録ヲ受ケタル者又ハ之ヲ受ケントスル者死亡シタルトキハ其權利ハ相續者ニ屬スルモノトス

第十條 他人ノ委託又ハ雇主ノ費用ヲ以テ按出シタル意匠ノ登録出願ノ權利ハ其委託者若クハ雇主ニ屬ス但別ニ契約アル場合ニ於テ

ハ此限ニ在ラズ

第十一條 登録ヲ受ケタル意匠ト雖モ第二條ニ該ルコトヲ發見セラレタルモノ又ハ第八條第十條ニ違ヒ登録ヲ受ケタルコトヲ發見セラレタルモノハ其登録ヲ無効トス

第十二條 意匠ノ審査査定審判ニ關スル事項ハ總テ特許條例ヲ適用ス

第十三條 意匠専用權ハ制限ヲ付シ若クハ付セスシテ賣與讓與シ若クハ共有ト爲シ又ハ書入ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ特許局ニ請求シ契約ノ登録ヲ受クベシ登録ヲ受ケサル契約ハ第三者ニ對シ法律上其効ナキモノトス

第十四條 特許局ノ官吏ハ在職中意匠ノ登録ヲ出願シ又ハ意匠専用權ヲ新ニ有スルコトヲ得ズ但相續ニ由リ意匠専用權ヲ新ニ有スルハ此限ニ在ラズ

第十五條 登録意匠主其登録證ヲ毀損若クハ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ再下付ヲ出願スルコトヲ得

第十六條 登録意匠主其明細書若クハ圖面ノ不完全ナルコトヲ發見シタルトキハ登録ノ効力ヲ全クスル爲メ改訂明細書若クハ圖面ヲ添へ登録證ノ改訂ヲ出願スルコトヲ得但其意匠ニ變更ヲ生スルモノハ此限ニアラズ

第十七條 登録意匠主ハ其意匠ヲ應用シタル物品ニ農商務大臣ノ定メタル登録標記ヲ爲スベシ

第十八條 意匠ニ關シ出願又ハ請求スル者ハ左ノ手数料ヲ納ムベシ
二十一年閣令第廿三號(第二百二十一第二項)ヲ以テ手数料登録料ハ登記印紙ヲ以テ納メシム(二百五十九ノ一項)參照

一 意匠ノ登録ヲ出願スルトキ

一意匠ニ付物品一類毎ニ 金五拾錢

- 二 登録意匠ノ賣與讓與共有又ハ書入契約ノ登録ヲ請求スルトキ
 - 一 同上 金三圓
 - 三 登録証ノ再下付ヲ出願スルトキ
 - 一 証書一枚毎ニ 金壹圓
 - 四 登録証ノ改訂ヲ出願スルトキ
 - 一 意匠ニ付物品一類毎ニ 金貳圓
 - 五 審判ヲ請求スルトキ
 - 一 事件毎ニ 金七圓
- 第十九條 意匠登録証又ハ其改訂登録証ヲ受クルモノハ意匠ヲ應用スル物品一類毎ニ左ノ區別ニ從ヒ登録料ヲ納ムベシ
- 一 三年ノ専用 金壹圓
 - 二 五年ノ専用 金貳圓
 - 三 七年ノ専用 金四圓

- 四 十年ノ専用 金八圓
- 第二十條 登録意匠ニ關スル書類ノ謄本若クハ圖面ノ調製ヲ要スル者ハ特許局ニ之ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ相當ノ手数料ヲ納ムベシ
- 第二十一條 登録意匠ノ専用權ヲ侵シタルモノハ其意匠主ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スベシ
- 第二十二條 前條損害賠償ノ責ハ三年ヲ以テ期滿免除ノ期トス
- 第二十三條 他人ノ登録意匠ナルコトヲ知リ之ヲ同一物品ニ應用シテ之ヲ販賣シタル者又ハ情ヲ知リテ其物品ヲ受託販賣シタル者ハ十五日以上 月以下ノ重禁錮又ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス登録意匠主ノ權利ヲ侵スベキ物品ナルコトヲ知リ之ヲ外國ヨリ輸入シテ販賣シタル者又ハ情ヲ知リ其物品ヲ受託販賣シタル者ハ罰前項ニ同シ

詐欺ノ所爲ヲ以テ登録証ヲ受ケタル者又ハ登録ヲ受ケサル意匠ヲ
應用シタル物品ニ登録標記若クハ類似ノ標記ヲ爲シテ販賣シタル
者ハ罰第一項ニ同シ

第二十四條 前條第一項第二項ノ場合ニ於テハ其犯罪ノ物件ヲ沒收
シテ登録意匠主ニ給付シ其既ニ賣捌キタルモノハ代價ヲ追徴シテ
之ヲ給付ス

第二十五條 第二十三條第一項第二項ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ
其罪ヲ論ス

前項ノ場合ニ於テ告訴人ノ請求ニ依リ裁判官ハ假ニ其告訴ニ係ル
物品ノ販賣ヲ差止ムルコトヲ得

第二十六條 登録意匠主第十七條ノ登録標記ヲ爲スコトヲ怠リタル
トキハ告訴又ハ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十七條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒズ

第二十八條 此條例施行ノ細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第二十九條 此條例ハ明治二十二年二月一日ヨリ施行ス

(一) 意匠條例施行細則(明治二十二年一月四日農商務省令第二號)

(二) 意匠登録願書式(同上)

○意匠登録願

一何々〔意匠ノ
名稱〕

印紙

右ハ別紙明細及圖面(寫眞)ノ通ノ意匠ニシテ私(私共)ノ按出候モノニ
有之意匠條例ニ觸レサルモノト確信候間何箇年ノ登録相受度此段
相願候也

年月日

按出者

氏

名

印

農商務大臣氏名殿

○意匠登録願〔意匠者ト他人ト連名ノ意匠登録証
ヲ受ケントシテ登録ヲ願出ルトキ〕

例 條 匠 意

一何々〔意匠ノ
名稱〕

印紙

右ハ別紙明細書及圖面〔寫眞〕ノ通ノ意匠ニシテ私〔私共〕ノ按出候間何箇年ノ登録相受度尤登録証ノ儀ハ何某〔本籍ヲモ
記スベシ〕ト連名ニテ下付相成度此段相願候也

年 月 日

按出者 住所 氏 名 印

農商務大臣氏名殿

○意匠登録願〔意匠按出者他人ノ記名ニテ意匠登録
ヲ受ケントシテ登録ヲ願出ルトキ〕

一何々〔意匠ノ
名稱〕

印紙

右云々同上尤登録証ノ儀ハ何某〔本籍ヲモ
記スベシ〕ノ記名ニテ下付相成度此段相願候也

年 月 日

按出者 住所 氏 名 印

農商務大臣氏名殿

○意匠登録願〔相續者ヨリ意匠ノ
登録ヲ願出ルトキ〕

一何々〔意匠ノ
名稱〕

印紙

右ハ亡何某ノ按出ニ係リ私相續致候處別紙明細書及圖面〔寫眞〕ノ通ノ意匠ニシテ意匠條例ニ觸レサルモノト確信候間何箇年ノ登録相受度此段相願候也

年 月 日

按出者 住所 氏 名 印
登願人 氏 名 印

農商務大臣氏名殿

○意匠登録願〔他人ノ按出ニ係ル
意匠ヲ願出ルトキ〕

一何々〔意匠ノ
名稱〕

印紙

右ハ別紙明細書及圖面〔寫眞〕ノ通ノ意匠ニシテ私私共當會社當組合

例 條 許 特

ヨリ何某〔本籍ヲモ
記スベシ〕ニ託シ按出セシメタルモノニ有之意匠條例ニ觸
レサルモノト確信候間何箇年ノ登録相受度此段相願候也

住所

年 月 日

登録願人 氏

名 印

農商務大臣氏名殿

○意匠登録再下付願

印紙

一第何號意匠登録証

一何々〔登録意匠
ノ名稱〕

一按出者氏名

右私〔事由ヲ記
スヘシ〕共所有意匠登録何々〔事由ヲ記
スヘシ〕ニ依リ毀損亡失候ニ付意匠登
録証再下付相成度此段相願候也

住所

年 月 日

登録意匠主 氏

名 印

農商務大臣氏名殿

○意匠登録証改訂願

印紙

一第何號意匠登録証

一何々〔意匠ノ
名稱〕

一按出者氏名

右私〔事由ヲ
記スヘシ〕共所有意匠登録証付屬ノ明細書圖面又ハ寫真〔事由ヲ
記スヘシ〕中何々〔事由ヲ
記スヘシ〕シノ爲メ登録ノ効力ヲ全クシ難ニ付別紙之通改訂致度尤之カ爲メ
意匠ノ要部ニ變更ヲ生スル儀無之間改訂意匠登録証下付相成度別
紙訂正明細書改訂圖面又ハ寫真並ニ現意匠登録証及付屬明細書圖
面又ハ寫真相添此段相願候也

住所

年 月 日

登録意匠主 氏

名 印

農商務大臣氏名殿

〇登錄意匠賣與(讓與共有又ハ書入)登錄請求書

一第何號意匠登錄証

一何々(登錄意匠)ノ名稱

印紙

右私(私共)所有登錄意匠ハ何年何月何日ノ約定書ニ依リ何某(本籍ヲモ記ス)ハ書入致置候處今般別紙約定書ノ通賣與(讓與共有又ハ書入)候間登錄相成度約定書相添此段請求候也

住所

年月日

登錄意匠主 氏

名 印

買受(讓受共有)人氏

名 印

特許局長氏名殿

(第八) 〇商標條例 (明治二十二年十二月二十日公布敕令第八十六號)

第一條 自己ノ商品ヲ表彰スル爲メ商標ヲ使用セント欲スル者ハ此

條例ニ依リ其商標ノ登錄ヲ受ケ之ヲ專用スルコトヲ得

商標ハ特別著明ナル圖形字体又ハ其結合ヲ以テ要部ト爲スヘシ

第二條 左ニ掲クル商標ハ登錄ヲ受クルコトヲ得ザルモノトス

一 風俗ヲ害スヘキモノ

二 商品普通ノ名稱若クハ内外國ノ旗章ノミヲ以テ要部ト爲スモノ

ノ

三 他人ノ登錄商標又ハ登錄出願以前ヨリ他人ノ使用スル商標ト

同一若クハ類似ニシテ同一商品ニ使用セントスルモノ

第三條 商標ノ登錄ヲ受ケントスル者ハ一商標毎ニ明細書及見本ヲ

添へ農商務大臣ニ出願スヘシ但其願書明細書及見本ハ特許局ニ差

出スヘシ

第四條 商標ノ登錄ヲ出願スル者アルトキハ特許局長ハ特許局審査

官ヲシテ其商標ヲ審査セシメ登錄ヲ許スヘシト査定シタルモノハ

農商務大臣ノ認可ヲ經テ商標原簿ニ登錄シ其登錄証下付ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條 登錄証ハ農商務大臣之ニ署名シ特許局長之ニ副書シ明細書及見本ヲ添ヘ之ヲ下付スルモノトス

第六條 商標專用年限ハ二十年トシ原簿登錄ノ日ヨリ起算ス

第七條 商標ノ專用ハ農商務大臣ノ定ムル商品類別ニ於テ出願人ノ指定シタル商品ニ限ルモノトス

第八條 二人以上同一又ハ類似ノ商標ヲ同一商品ニ使用セントシテ登錄ヲ出願スル者アルトキハ願書日付ノ先ナルモノヲ登錄ス其日附同キモノハ共ニ之ヲ登錄セザルモノトス但其出願ヲ取消ス者アリテ出願者一人トナリタルトキハ此限ニ在ラス

第九條 商標ノ登錄ヲ受ケタル者又ハ之ヲ受ケントスル者死亡シタルトキハ其權利ハ相續者ニ屬スルモノトス

第十條 登錄ヲ受ケタル商標ト雖モ第二條ニ該ルコトヲ發見セラレタルモノ又ハ第八條ニ違ヒ登錄ヲ受ケタルコトヲ發見セラレタルモノハ其登錄ヲ無効トス

第十一條 登錄ノ審査査定審判ニ關スル事項ハ總テ特許條例ヲ適用ス

第十二條 登錄商標主其營業ヲ賣與シ又ハ他人ト其營業ヲ共ニスル場合ニ限り其商標專用權ヲ賣與讓與シ若クハ共有ニナスコトヲ得此場合ニ於テハ特許局ニ請求シ契約ノ登錄ヲ受ケヘシ登錄ヲ受ケザル契約ハ第三者ニ對シ其効ナキモノトス

第十三條 登錄ヲ受ケタル商標ト雖モ左ノ場合ニ於テハ登錄ノ効ヲ失フモノトス

- 一 登錄商標主相當ノ事故ナクシテ商標登錄日付ヨリ六箇月ヲ經テ其商標ヲ使用セザルトキ

二 登録商標主相當ノ事故ナクシテ其商標ノ使用ヲ一箇年間中止シタルトキ

三 登録商標主其商標ヲ使用スル商品ノ數量産地品質等ニ關シ不實ノ事項ヲ附記シムルトキ

四 登録商標主其商標ヲ使用スル營業ヲ廢止シタルトキ

五 登録商標主磨滅若クハ缺損シタル商標ヲ使用シタルトキ

第十四條 登録商標主其専用年限満期ノ後其商標ヲ續用セント欲スル者ハ更ニ其登録ヲ出願スルコトヲ得

第十五條 登録商標主其登録証ヲ毀損若クハ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ再下付ヲ出願スルコトヲ得

第十六條 登録商標主其明細書若クハ見本ノ不完全ナルコトヲ發見シタルトキハ登録ノ効力ヲ全クスル爲メ訂正明細書若クハ見本ヲ添へ登録証ノ改訂ヲ出願スルコトヲ得但其商標ノ要部ニ變更ヲ生ス

ルモノハ此限ニアラズ

第十七條 商標ニ關シ出願又ハ請求スル者ハ左ノ手数料ヲ納ムヘシ

一 商標ノ登録ヲ出願スルトキ 金壹圓

二 登録商標ノ賣與讓與又ハ共有契約ノ登録ヲ請求スルトキ 一商標ニ付商品一類毎ニ 金三圓

三 登録証ノ再下付ヲ出願スルトキ 證書一枚毎ニ 金壹圓

四 登録証ノ改訂ヲ出願スルトキ 一商標ニ付商品一類毎ニ 金貳圓

五 審判ヲ請求スルトキ 一事件毎ニ 金七圓

第十八條 商標登録証又ハ其改訂登録証又ハ其續用登録証ヲ受クル

者ハ其商標ヲ使用スル物品一類毎ニ登録料金拾圓ヲ納ムヘシ
 第十九條 特許局ハ時々商標公報ヲ印刷シ衆庶ノ縦覽ニ供スヘシ其
 請求者アルトキハ相當代價ヲ以テ之ヲ拂下クルコトヲ得
 第二十條 登録商標ニ關スル書類ノ謄本ヲ要スル者ハ特許局ニ之ヲ
 請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ相當ノ手数料ヲ納ムヘシ
 第二十一條 登録商標ノ專用權ヲ侵シタル者ハ其商標主ニ對シ損害
 賠償ノ責ニ任スヘシ
 第二十二條 前條損害賣償ノ責ハ三年ヲ以テ期滿免除ノ期トス
 第二十三條 他人ノ登録商標ナルコトヲ知リ之ト同一又ハ類似ノ商
 標ヲ同一商品ニ使用シテ之ヲ販賣シタル者又ハ情ヲ知り其商品ヲ
 受託販賣シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百
 圓以下ノ罰金ニ處ス
 詐偽ノ所爲ヲ以テ登録証ヲ受ケタル者又ハ登録ヲ受ケサル商標ニ

登録ノ文字ヲ記シタル者又ハ情ヲ知り其商品ヲ受託販賣シタル者
 ハ罰前項ニ同シ
 第二十四條 前條ノ場合ニ於テハ違犯ノ証標ヲ沒収ス其商品ト分離
 スヘカササルモノハ商品ヲ破毀セシム
 第二十五條 第二十三條第一項ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ
 論ス
 前項ノ場合ニ於テ告訴人ノ請求ニ依リ裁判官ハ假ニ其告訴ニ係ル
 物品ノ販賣ヲ差止ムルコトヲ得
 第二十六條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發例ヲ用ヒス
 第二十七條 此條例施行ノ細則ハ農商務大臣之ヲ定ム
 第二十八條 此條例ハ明治二十二年二月一日ヨリ施行ス
 (一) 商標條例施行細則〔明治二十二年一月四日農商務省令第三號〕
 (二) 全上書式〔全上〕

別紙明細書ニ記載ノ商標ハ商標條例ニ觸レサルモノト確信候間登錄相受度此段相願候也

○商標登錄願

印紙

住所

營業名 出願商標ヲ使用スル業名以下此例ニ依ル

年月日

登錄願人

氏

名

印

農商務大臣氏名殿

○登錄商標續用登錄願

一第何號商標登錄証

印紙

右私所有登錄証標來ル明治何年何月何日ニテ專用年限滿期之處尙ホ引續キ專用致度ニ付更ニ登錄相受度此段相願候也

住所

年月日

登錄商標主

氏

名

印

農商務大臣氏名殿

○商標登錄証再下付願

一第何號商標登錄証

印紙

右私所有商標登錄証何々事由ヲ記スヘシニ依リ毀損亡失候ニ付商標登錄証再下付相成度此段相願候也

住所 登錄商標主

氏

名

印

農商務大臣氏名殿

○商標登錄改訂願

一第何號商標登錄証

印紙

右私所有商標登錄証付屬ノ明細書(見本)中何々事由ヲ記スヘシノ爲メ登錄ノ効力ヲ全クシ難キニ付別紙之通改訂致度尤之カ爲メ商標ノ要部ニ變更ヲ生スル義無之候間改訂商標登錄証下付相成度別紙改訂明

細書改訂見本並ニ現商標登錄証及附屬明細書(見本)相添此段相願候也

年月日 住所 登錄商標主 氏 名 印

農商務大臣氏名殿

○登錄商標賣與(讓與)又ハ共有(登錄請求書

右私所有登錄商標ヲ別紙約定書之通營業ト共ニ賣與(讓與)又ハ共有(候間登錄相成度約定書相添此段請求候也

年月日 住所 登錄商標主 氏 名 印

全上

買受(讓受)人 氏 名 印

農商務大臣氏名殿

(第九)◎古物商取締條例 (明治十六年十二月二十八日布告第五十號)

第一條 古物商トハ古道具古書畫古銅鐵鍍金銀ヲ賣買スル營業者ヲ云フ

袋物屋小間物屋鼈甲屋時計屋飾屋箔打屋煙管屋ニシテ其營業ニ屬スル古物ヲ賣買交換スル者及ヒ刃劔商ハ此條例ニ準據スヘシ

第二條 古物商ハ管轄廳(東京府ハ)ノ免許ヲ受クヘシ

第三條 古物商物品ヲ賣買シ又ハ交換シタルトキハ警察官ニ於テ其物品及ヒ賣主讓主ヲ調査スルニ差支ナキ様簿冊ニ記載シ且買主讓受主ヲ詳ニスルコトヲ得タルトキハ之ヲ記載スヘシ

第四條 身元詳ナラサル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換スルコトヲ得ス但身元詳ナル者其証人タルトキ又ハ警察官若クハ巡查ノ認可ヲ受ケタルトキハ此限ニアラス

第五條 十五年未滿ノ者白痴風癩者及ヒ雇人(雇主ノ家ニアル者)ヨリ物品ヲ買

取り又ハ交換スルコトヲ得ス但父母後見人雇主又ハ身元詳ナル者其証人タルトキハ此限ニアラス

官廳町村學校病院社寺會社ノ印章記號アル物品ハ其賣却シ得ヘキコトヲ證明スル証人貳名以上アルニ非サレハ之ヲ買取リ又ハ交換スルコトヲ得ス

前二項ニ違背シタル者ハ警察官ノ命ニヨリ無代價ニテ物品ヲ取戻サル、コトアルヘシ

第六條 古物商ハ營業者タルト否トヲ問ハス盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受クル者ヨリ物品ヲ買取リ又ハ交換シ及ヒ寄藏スルトキハ警察官ノ許可ヲ受クヘシ違フ者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 古物商ハ自宅又ハ許可ヲ受ケタル市場及ヒ賣主護主ノ居宅

ノ外ニ於テ物品ヲ買取リ又ハ交換スルコトヲ得ス

第八條 刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具ハ身元詳ナラサル者及ヒ盜罪賭博ノ處斷ヲ受ケタル者ニ賣渡讓渡シ又ハ露店及ヒ路傍ニ於テ賣渡讓渡スコトヲ得ス

第九條 古物商物品ヲ他府縣ニ運送セントスルトキ又ハ他府縣ヨリ受取リタルトキハ其物品ノ目錄ヲ所轄警察署ニ届出ツヘシ

警察官ハ時宜ニ依リ荷作ヲ解キ物品ヲ檢査シ又ハ差押フルコトアルヘシ但費用ハ届人之ヲ擔當スヘシ

第十條 贖物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日時ヲ某品觸寫書ニ附記スヘシ

第十一條 品觸到達以後一年內ニ類似ノ品物ヲ買取リ又ハ交換シ及ヒ寄藏シタルトキ若クハ其以前ニ之ヲ得タルマ、所持シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ツヘシ若シ届出テスシテ其理由ヲ辨解ス

ルコト能ハサル者ハ第六條ノ刑ニ同シ

第十二條 物品ノ賣買交換ヲ記載シタル簿冊及ヒ品觸寫書ハ十年間保存スヘシ若シ亡失シタルトキハ直チニ所轄警察署ニ届出ツヘシ

第十三條 警察官ハ何時タリトモ古物商ノ店舖ニ臨ミ物品及ヒ簿冊ノ検査ヲ爲シ時宜ニ依リ其物品ヲ差押ヘ又ハ時々簿冊ヲ差出サシメ之ヲ検査スルコトアルヘシ古物商ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十四條 第二條第三條第四條第五條第七條第八條第九條第十條第十二條第十三條ニ違背シ又ハ詐偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第六條第十一條第十四條及ヒ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル古物商ハ管轄廳〔東京府ハ〕ニ於テ三月以上三年以下ノ特別取締ニ付スルコトヲ得

第十六條 特別取締ニ付セラレタル者ハ尙左ノ項目ニ從フヘシ

一 物品ヲ買取リ又ハ交換シタルトキハ其賣主讓主ノ住所氏名年齢及ヒ物品ノ形状〔徽章番号竊柄摸樣〕價額年月日ヲ簿冊ニ記載スヘシ

二 日出前日没後ハ物品ヲ買取リ又ハ交換シ及ヒ寄藏スルコトヲ得ス

三 營業者ニアラサル者ヨリ物品ヲ買取リ又ハ交換シタルトキハ其物品ヲ現狀ノ儘五日間保存スヘシ

四 物品ヲ賣渡シ又ハ交換シタルトキハ其物品ノ形状價額年月日時ヲ簿冊ニ記載シ且買主讓受主ノ住所氏名年齢ヲ知り得タルトキハ之ヲ記載スヘシ

五 毎月一度物品賣買交換ノ簿冊ヲ所轄警察署ニ差出シ其検査ヲ受クヘシ

六 住所ヲ移轉シ又ハ旅行シ又ハ他人ヲ宿泊同居セシメントスル

トキハ所轉警察署ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條 前條ニ違背シタル者ハ三圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 特別取締ニ付セラレタル者ハ第六條第十一條第十四條第

十七條ニ依リ罰金ニ處セラレタルトキハ直チニ之ヲ納完セシム若

シ納完セサル者ハ留置セラル、コトアルヘシ

第十九條 古物商一年內ニ此條例ヲ再犯シタルトキハ行政ノ處分ヲ

以テ其營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得

第二十條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十一條 此條例ヲ犯シテ買取リ又ハ交換シタル物品贖物ニ係ル

モノハ營業者ニ依ルト否トヲ問ハス警察署ニ於テ之ヲ追徴シテ被

害者ニ還付スヘシ若シ被害者知レサルトキハ之ヲ領置シ一年後官

ニ沒ス

第二十二條 商業上ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖モ營業者其責

ニ任スヘシ

第二十三條 此條例ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事〔東京ヲ除ク〕

縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出ツヘシ

(第十) ◎質屋取締條例 〔明治十七年三月二十五日布告第九號〕

第一條 質屋營業ヲ爲ス者ハ管轄廳〔東京府ハ警視廳〕ノ免許ヲ受クヘシ

第二條 質屋ハ質物大帳ヲ備ヘ其紙數ヲ記シ所轄警察署ノ捺印ヲ受

クヘシ

第三條 身元詳ナラサル者ヨリ質物ヲ取ルコトヲ得ス但身元詳ナル

者証人タルトキハ此限ニアラス

第五條 十五年未滿者白痴風癩及雇人〔雇主ノ家ニアル者〕ヨリ質物ヲ取ルコト

ヲ得ス但父母後見人雇主又ハ身元詳ナル者証人タルトキハ此限ニ

アラス

官廳町村學校病院社寺會社ノ印章記號アル物品ハ其質入シ得ヘキ
コトヲ證明スル証人二名以上アルニアラサレハ之ヲ質物ニ取ルコ
トヲ得ス

前二項ニ違背シタル者ハ警察官ノ命ニ依リ元利金ヲ償フコト無ク
質物ヲ取戻サル、コトアルヘシ

第六條 盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處
斷ヲ受ケタル者ヨリ物品ヲ質ニ取り又ハ寄藏シタルトキハ直ニ所
轄警察署ニ届出ヘシ

第七條 贖物ノ疑アル品物又ハ身柄不相應ト認メタル物品ヲ持來ル
者アルトキハ直ニ所轄警察署又ハ巡行ノ警察官巡查ニ密告スヘシ

第八條 流質物ヲ賣拂ハントスルトキハ五日以前ニ其物品目錄ヲ所
轄警察署ニ差出スヘシ

第九條 流質物ヲ賣拂ヒタルトキハ警察官ニ於テ其物品代價及買主

ヲ調査スルニ差支ナキ様流質賣拂帳ニ記載スヘシ

第十條 贖物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日時ヲ其品觸寫書ニ
附記スヘシ

第十一條 品觸到達以後一年內ニ類似ノ物品ヲ質ニ取り又ハ寄藏シ
タルトキ若クハ其以前ノ質物及寄藏品中ニ類似ノ物品ヲ發見シタ
ルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

第十二條 質物臺帳流質物賣拂帳及品觸寫書ハ十年間保存スヘシ若
シ亡失シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

第十三條 警察官ハ何時タリトモ質屋店舖ニ望ミ質物及帳簿ノ検査
ヲ爲シ時宜ニ依リ其質物ヲ差押ヘ又ハ時々帳簿ヲ差出サシメ之ヲ
検査スルコトアルヘシ質屋ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十四條 此條例ニ違背シ又ハ詐偽ノ届出ヲ爲シタル者二圓以上二
百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 此條例ヲ一年內ニ再犯シタル者ハ行政ノ處分ヲ以テ其營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得

第十六條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第十七條 營業上ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖モ營業者其責ニ任スヘシ

第十八條 此條例ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事〔東京府〕縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出ヘシ

(第十) ◎ 郵便條例

郵便條例

第一章 郵便物

第一條 凡ソ郵便物別テ四種ト爲ス

一書狀

二郵便葉書及往復葉書

三毎月一回以上發行スル定時印刷物及ヒ其付録

四書籍帳簿各種ノ印刷物寫眞書畫繪圖野紙營業品見本及雛形農產物種子

第二條 何品ヲ問ハス此條例ニ抵觸セサルモノハ第一種郵便物トナスヲ得

第三條 封緘シタル郵便物ハ第一種郵便物トナスヘシ

第四條 第二種郵便物ヲ他種ノ郵便物ト合裝スルキハ總テ第一種郵便物トナスヘシ

第五條 第二種郵便物左ニ記載シタル所爲アルキハ第一種郵便物トナスヘシ

一 截斷又ハ破却シタルモノ

一 稅額印面ニ文字ヲ書シタルモノ

例 條 便 郵

- 一 稅額印面ニ郵便切手ヲ貼付シタルモノ
- 一 紙〔配達又ハ返戻ノ爲ニスルモノヲ除ク〕其他ノ品ヲ貼付シタルモノ
- 一 一葉ヲ折り之レヲ全ク糊着シ又ハ數葉ヲ合セ之レヲ全ク糊着シタルモノ
- 一 表面ニ音信文ヲ記載シタルモノ
- 第六條 第三種郵便物ハ其發行人ヨリ定時印刷物タルヲ証シテ〔驛遞總官〕ノ認可ヲ受ケ〔驛遞局認可〕ノ文字ヲ印刷スヘシ但其文字標題番号及ヒ發行ノ年月日ヲ見易カラシムヘシ其付録ハ其本紙ノ標題番号及ヒ發行ノ年月日ヲ印刷シ冊子ト爲サスシテ本紙ニ添付シ且本紙ノ重量ニ超過セサルモノニ限ルヘシ
- 第七條 第三種第四種郵便物ハ封緘セサルモノトス
- 第八條 第三種第四種郵便物ニ音信文又ハ暗號隱語ヲ筆書スル片ハ第一種郵便物ト爲スヘシ

例 條 便 郵

- 第九條 營業品ノ見本及ヒ離形ハ雙方又ハ一方營業者ト往復スルモノニ限ルベシ
- 第十條 營業者ニ非ルモノ、間ニ往復スル見本及ヒ離形ハ第一種郵便物ト爲スヘシ
- 第十一條 異種ノ郵便物ヲ合裝スルキハ總テ其種類中高額稅ヲ課スヘキ郵便物トナスヘシ但第四條ニ記載シタルモノハ此限ニアラス
- 第十二條 郵便物ノ重量ハ郵便切手封皮帶紙ノ重量ヲ合算スルモノトス
- 第十三條 第三種第四種郵便物〔營業品ノ見本及離形ヲ除ク〕ハ一個ノ重量三百目ニ超過ス可ラス
- 第十四條 營業品ノ見本及ヒ離形ハ一箇ノ重量百目ニ超過ス可ラス
- 第十五條 郵便物ノ大サハ曲尺ニテ長一尺二寸幅八寸厚五寸ニ超過スヘカラス

第十六條 左ニ記載シタル者ハ郵便物トナス可ラス

一 毒藥、劇藥、爆發燃燒シ易キ物品（十九年二月十二日第四號布告ヲ以テ第一項ヲ改メテ本項及次ノ一項ト爲ス）

一 流動物、流動腐敗シ易キ物、孵化スヘキ物、動物、植物、鋒刃器、硝子器、陶器等他ノ郵便物ヲ傷害スヘキ物品但十分ノ豫防ヲ爲シ郵便局若クハ郵便受取所ノ承認ヲ受ケタル後郵便ニ差出スモノハ此限ニ非ス

一 風俗ヲ害スヘキ文書、書圖、寫眞、及物品

一金銀寶玉

一 貨幣但第十章ノ規則ニ從フモノハ此限ニ非ス

第二章 郵便稅

第十七條 郵便稅ハ郵便物ノ種類ニ從ヒ其額ヲ定ム

第一種郵便物 重量二匁毎ニ（二匁未滿亦同シ）

第二種郵便物

葉書 一葉 （十七年第三十三號布告ヲ以テ葉書一錢トアル） 往復葉書 一葉 （ルヲ葉書一葉一錢往復葉書一葉二錢ト改ム） （一錢 二錢）

第三種郵便物

一號一箇重量十六匁毎ニ（十六匁未滿亦同シ） 二號又ハ二箇以上一束重量十六匁毎ニ（十六匁未滿亦全） 一錢 五厘

第四種郵便物

重量三十匁毎ニ（三十匁未滿亦全シ）

第十八條 郵便稅ハ郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之レヲ納メタルモノトス郵便封皮葉書往復葉書帶紙ハ切手ヲ貼付シタルト同般ナリトス但（驛遞總官ト約定アルモノハ此限ニアラス） （同上葉書ノ下） （往復葉書ノ四字ヲ加フ）

第十九條 納稅ニ用ヒタル郵便切手并封皮葉書帶紙ノ稅額印面ハ郵便局ニ於テ消印スヘシ（同上）

第二十條 郵便稅ニ過納アルモ其稅額面ニ消印シタル後ハ之レヲ還付セス

第二十一條 未納稅又ハ不足稅ノ郵便物ハ受取人ヨリ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ

受取人其郵便物ヲ受取リタルキハ其納稅ヲ拒ムヘカラス
受取人其郵便物ヲ受取ラスシテ差出人ニ還付スルキハ其差出人ヨリ其額ノ三倍ヲ徵收スヘシ

第二十二條 未納稅又ハ不足稅ノ郵便物配達シ能ハス差出人ニ還付スルキハ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ差立前ニ係ル未納稅又ハ不足稅ノ郵便物ヲ差出人ニ還付スルトキ亦同シ

第二十三條 第十三條第十四條第十五條ニ背戻スル郵便物ヲ差出人ニ還付スルトキハ未納稅又ハ不足稅ノ二倍ヲ徵收スヘシ

第二十四條 人民ヨリ官廳ニ差出ス郵便物ハ郵便稅完納ニ限ル可シ未納稅又ハ不足稅ノ者ハ差出人ニ還付シ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ
第二十五條 未納稅又ハ不足稅ヲ徵收スルトキハ郵便局ニ於テ郵便

切手ヲ郵便物ニ貼付シ其切手ニ未納又ハ不足ノ印ヲ捺シ証ト爲スヘシ

第三章 郵便切手封皮葉書往復葉書帶紙

第二十六條 郵便切手封皮郵便葉書郵便帶紙ハ日本政府ニ於テ發行セシモノタル可シ〔同上〕

第二十七條 郵便切手封皮葉書帶紙ハ郵便稅納ノ証ト爲シ又郵便切手ハ書留手數料並別配達料納濟ノ証トナスモノトス〔同上〕

第二十八條 郵便封皮ヲ用フルトキ其郵便物ノ重量ニ因テ稅額ニ不足ヲ生スルトキハ郵便切手ヲ以テ之レヲ補フヘシ

第二十九條 郵便封皮ノ價位ハ其印面ノ稅額ニ製造費ヲ加ヘタル額ヲ以テ〔驛遞總官〕之レヲ定ムヘシ

第三十條 郵便帶紙ハ三種郵便物一號一箇ヲ以テ達スルモノニ用ユヘシ但重量十六匁以下ノモノニ限ルヘシ

第三十一條 郵便帶紙ハ第三種郵便物發行人若クハ賣捌人ノ請求ニ依リ〔驛遞局〕ニテ賣下クヘシ

第三十二條 郵便切手封皮葉書往復葉書ヲ賣ルモノハ〔驛遞總官〕ノ免許ヲ受ケ郵便切手賣所ノ標板ヲ掲ク可シ〔同上〕

第三十三條 郵便切手封皮葉書往復葉書ハ郵便局郵便受取所郵便切手賣下所ノ外ニ於テ賣買ス可ラス〔同上〕

第三十四條 郵便局郵便請取所郵便切手賣下所ハ郵便切手封皮葉書往復端書ノ印面稅額ヨリ低價ヲ以テ賣ル可ラス〔同上〕

第三十五條 郵便封皮葉書帶紙ノ印面稅額ヲ切取り郵便切手ニ代用スルモ其効用ヲ有セス〔同上〕

第三十六條 郵便切手並封皮葉書往復葉書帶紙ノ汚斑毀損捺印アルモノ及稅額印面不明瞭ナルモノハ其効用ヲ失フ然レモ其未タ使用セサルモノニ限り二人以上ノ証人ヲ立テ其原由ヲ明瞭ナラシムル

トキハ〔驛遞局〕ニ於テ定價十分二減ニテ買戻ス可シ〔同上〕

第三十七條 〔驛遞局〕及一等郵便局ニ於テハ四枚以上聯續シタル郵便切手並封皮葉書往復葉書帶紙ヲ其所持ノ請求ニ依リ定價十分一減ニテ買戻スヘシ〔同上〕

第四章 免稅郵便

第三十八條 郵便郵便爲替及貯金ノ事務ニ關スル郵便物ハ其稅ヲ免除ス

第三十九條 免稅郵便物ハ〔驛遞局〕郵便局府縣廳府縣所屬廳郡區役所並以上各廳派出官吏相互ノ間又ハ之レト往復スルモノニ限ルヘシ

第四十條 免稅郵便物ハ表面ニ郵便事務爲替事務貯金事務ノ文字ヲ記載ス可シ

第四十一條 官廳ニ宛テ又ハ官廳ヨリ差出ス免稅郵便物ハ官氏名若クハ廳名課名ヲ記載シ派出官吏ニ宛テ又ハ派出官吏ヨリ差出ス免

例 條 便 郵

税郵便物ハ官氏名ヲ記載ス可シ

第四十二條 人民ヨリ差出ス免税郵便物ハ宿所氏名ヲ記載ス可シ

第四十三條 免税郵便物ニ他ノ音信文或ハ暗號隱語ヲ記載シ又ハ有

税郵便物ヲ附シタルモノハ相當種類ノ郵便税ヲ徴収スヘシ

第五章 書留郵便

第四十四條 書留郵便物ハ郵便局ノ帳簿ニ登記シ遞送配達ノ受授ヲ証スルモノトス

第四十五條 書留手数料ハ郵便物ノ何種ニ拘ラス六錢トス

第四十六條 書留郵便物ハ郵便税手数料共前納ニ限ルヘシ

第四十七條 書留手数料ハ郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之レヲ納メタルモノトス

第四十八條 書留郵便物ヲ差出ストキハ其表面ニ書留ト記載シ郵便局若クハ郵便受取所ニ於テ之レヲ主務者ニ交付シ印刷シタル式紙

例 條 便 郵

ニ郵便局若クハ郵便受取所ノ印及主務者ノ印ヲ捺セル受取証書ヲ受領スヘシ

第四十九條 書留郵便物ノ配達ヲ受ケタルモノハ其差出人及ヒ受取人ノ氏名配達ノ年月日ヲ記シタル受取証書ニ調印ス可シ本人不在ナルトキハ其代人記名調印スヘシ

第五十條 免税郵便物ハ書留手数料ヲ納ムルニ及ハス

第六章 郵便物遞送配達

第五十一條 郵便物遞送配達ハ郵便局ニ於テ之レヲ管スルモノトス

第五十二條 郵便局ノ廢置ハ〔驛遞總官〕新聞紙ヲ以テ之レヲ公告スヘシ

第五十三條 郵便物ハ其宛名ノ家ニ配達シ二名以上ニ宛テタルモノハ其内ノ一名ニ配達スヘシ肩書〔寄宿所ノ類以テアルモノハ其肩書ノ家ニ配達スヘシ〕

例 條 便 郵

第五十四條 完納稅郵便物宛名ノ家ニ於テハ其配達ヲ拒ム可ラス免稅郵便物亦全シ但市外別配達料解船料貨幣遞送配達賃ニ追納アルモノハ此限ニアラス

第五十五條 未納稅又ハ不足稅ノ郵便物受取人ニ於テ其稅ヲ納メサルトキハ之レヲ受取ルヲ得ス

第五十六條 郵便物ヲ開封シ又ハ其帶紙或ハ結束ヲ脱シ或ハ音信ヲ讀過スルトキハ之レヲ受取リタルモノト爲スヘシ但第百十五條ノ郵便物ハ此限ニアラス

第五十七條 郵便物配達ヲ受ケタル肩書ノ家ニ於テ其受取人移轉シタルトキハ直チニ之レヲ其配達人ニ還付スルカ或ハ其郵便物ニ加記又ハ付箋シ再ヒ郵便ニ出スヘシ但受取人ニ達スル爲メ其家ニ留メ置クモ日數三十日ニ過ク可ラス

第五十八條 其家ニ屬セサル郵便物ノ配達ヲ受ケタルトキハ其由チ

付箋シ速ニ之レヲ郵便ニ出スヘシ

其郵便物ヲ誤テ開封シタルトキハ更ニ封緘シ其事由ヲ副書シ速ニ之レヲ郵便ニ出ス可シ

第五十九條 配達シ能ハス或ハ未納稅又ハ不足稅ヲ受取人ニ於テ納メサル郵便物ハ之レヲ其差出人ニ還付スヘシ但二名以上ヨリ差出シタルモノハ之レヲ其内ノ一名ニ還付スヘシ

第六十條 第十三條第十四條第十五條ニ背戾スル郵便物ハ之レヲ差出人ニ還付スヘシ

第六十一條 差立前ニ係ル郵便物ハ差出人ノ請求ニヨリ之レヲ還付スルヲアルヘシ

第六十二條 第四種郵便物ハ次便ヲ以テ遞送スルヲアルヘシ

第六十三條 遞送及集配ノ途中ニ係ル郵便物ハ其郵便物ノ受取人タリトモ受授ス可ラス

例 條 便 郵

第六十四條 郵便局所在地ニ於テハ集配人ニ郵便物ノ差出方ヲ依托
ス可ラス又集配人ハ其委託ヲ受ク可ラス

第六十五條 郵便物ハ差出人ノ爲メ郵便局ニ於テ之カ秤量ヲナサス

第六十六條 郵便物ノ損害紛失及ヒ其損害紛失又ハ運達ヨリ生シタ
ル損失ハ(驛遞局)之レヲ償フノ責ニ任セス

第六十七條 書狀ハ郵便局ヲ經由セサレハ之レヲ送達シ又ハ送達セ
シム可ラス但左ニ記載シタル者ハ此限ニアラス

一 送達料ヲ拂ハス臨時ニ親族朋友雇人ノ類ヲ以テ其發信者ヨリ受
信者ニ直ニ達スル者

一 郵便ニ依ル能ハサル事故アリテ臨時ニ特使ヲ以テ其發信者ヨリ
受信者ニ直ニ達スルモノ

一 貨物ト共ニ發スル無封ノ添狀送狀

第六十八條 軍艦及海軍所屬ノ船舶ヲ除キ凡ソ内國各地ニ往復スル

船車ノ所有主若クハ其代理者ハ(驛遞局)又ハ郵便局ヨリ左ニ記載シ
タル運送賃額ヲ以テ郵便物ノ運送ヲ托スルトキハ之ヲ拒ム可ラス
但別段ノ約定アルモノハ此限ニアラス

一 第一種郵便物ハ一箇一錢ニ超過セザル額

一 第二種以下ノ郵便物ハ一個五厘ニ超過セザル額

第六十九條 郵便物運送ノ約定ヲ爲シタル者或ハ運送ノ托ヲ受ケタ
ルモノ其出發ノ日時ヲ定メ若クハ既定ノ日時ヲ變更スルハ速ニ
之レヲ其地ノ郵便局ニ届出ツ可シ

第七十條 時期ヲ定メテ郵便物運送ノ命ヲ受ケタルモノハ其期ヲ變
更ス可ラス

第七十一條 郵便物ノ運送ヲ爲スモノハ其郵便物ヲ安全ニ保護ス可
シ

第七十二條 郵便物ヲ積載セル船舶ハ到達地ニ於テ其郵便物ヲ陸揚

郵便例條

セシ後ニアラザレバ他ノ積載セル貨物ヲ陸揚ス可ラス

第七十三條 郵便物配達又ハ還付ヲ受ケタルモノ郵便局ニ於テ調査ノ爲メ其郵便物封皮帶紙又ハ葉書ノ交付ヲ求メラル、キハ之レヲ拒ム可ラズ但郵便切手貼付アルモノハ其儘交付ス可シ

第七章 別配達郵便

第七十四條 別配達郵便物ハ書留郵便ニ限ルモノニシテ通常配達ノ例ニ拘ラズ別ニ急速ノ配達ヲ爲スモノトス

第七十五條 別配達別テ二種トス

- 一 市内郵便局所在地別配達
- 一 市外郵便局未設地別配達

第七十六條 市内別配達料ハ東京京都及大坂ハ十錢其他ノ市内ハ六錢トス

第七十七條 市外別配達料ハ配達ノ郵便局ヨリ受取人ノ住所ニ至ル

路程ニ應シ十八町毎ニ六錢トス十八町未満亦同シ

第七十八條 別配達ハ郵便并別配達料共前納ニ限ルベシ

第七十九條 別配達料ハ郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之レヲ納メタルモノトス

第八十條 市外別配達ハ配達地ニ到リ路程ノ差違ニ因テ其料ニ不足ヲ生スルモ其料六錢以上納濟ノモノハ仍ホ別配達トシテ取扱ヒ受取人ヨリ其不足額ヲ徴収スベシ

第八十一條 市外別配達料不足額ヲ徴収スルキハ郵便局ニ於テ郵便切手ヲ郵便物ニ貼付シ其切手ニ不足ノ印ヲ捺シ其証トナスベシ

第八十二條 船舶ニ達スル別配達ハ其船舶ノ碇船所ニ從ヒ別配達料ノ外相當ノ解船料ヲ受取人ヨリ徴集スベシ

第八十三條 市外別配達料不足額又ハ解船料ヲ受取人ニ於テ納メザルハ其郵便物ヲ受取ルヲ得ス

郵便例條

其郵便物ハ差出人ニ還付シ其額ヲ徴収スベシ

第八十四條 別配達郵便物ヲ受取リタルモノモ市外別配達料不足額又ハ解船料ノ納付ヲ拒ムベカラズ

第八十五條 別配達ハ各郵便局ノ配達區域ニ拘ハラザルモノトス

第八十六條 甲郵便局所在地ニ達スルモノヲ乙郵便局ヨリ配達スルキハ市外別配達トナス可シ

第八十七條 市内別配達ハ其郵便物ノ表面ニ別配達ト記載ス可シ

第八十八條 市外別配達ハ其郵便物ノ表面ニ何地郵便局ヨリ別配達ト記載スベシ若シ其郵便局ヲ定メ難キハ單ニ別配達トノミ記載スベシ

第八十九條 別配達トノミ記載セルモノハ各郵便局ノ配達區域ニ從ヒ其地ノ郵便局ヨリ配達スベシ

第九十條 別配達郵便物受取人移轉シ其移轉先ニ達スルキハ別配達

トセズシテ配達スベシ

第九十一條 免稅郵便物ハ別配達料解船料ヲ納ムルニ及ハズ

第八章 郵便私書函

第九十二條 郵便私書函ハ郵便局ニ設置シ其開閉ニ供スル適當ノ鍵ヲ渡シ貸與スルモノトス

第九十三條 私書函ノ借受人ニ宛テタル郵便物ハ其住所ニ配達セズ私書函ニ入置ク可シ

第九十四條 私書函貸與料ハ一ヶ月金三圓以下ヲ以テ(驛遞總官)之レヲ定ム可シ

第九十五條 私書函貸與期限ハ一ヶ月以上トシ其貸與料ヲ前納ス可シ

第九十六條 私書函借受人ニ宛テタル別配達書留及未納稅不足稅ノ郵便物ハ私書函ニ入レスシテ其住所ニ配達ス可シ

第九十七條 私書函ハ二人以上又ハ二會社以上ノ名ヲ以テ其一個ヲ借受ルヲ得ス

第九十八條 私書函貸與ノ滿期ニ至ルキハ速ニ其鍵ヲ郵便局ニ返納ス可シ之レヲ返納セザルキハ前期ヲ繼テ借受ケタルモノト爲ス可シ

第九章 留置郵便

第九十九條 留置郵便物ハ表記地名ノ郵便局ニ留置キ受取人ヲ待テ交付スルモノトス

第一百條 留置郵便物ハ其表面ニ何地郵便局留置ト記載スベシ

第一百一條 留置郵便物ヲ受取ルモノハ其受取人タルヲ書面或ハ口頭ヲ以テ証ス可シ

第一百二條 留置郵便物ハ郵便稅完納ニ限ルベシ

第一百三條 未納稅又ハ不足稅ノ郵便物ヲ留置ト爲スキハ之ヲ差出人

ニ還付シ其額ノ二倍ヲ徵集スベシ

第一百四條 留置期限ハ九十日ニ限ルベシ

留置期限内ニ郵便物ヲ受取ラザルキハ之レヲ差出人ニ還付スベシ

第十章 貨幣封入郵便

第一百五條 貨幣封入郵便物ハ〔驛遞總官〕ト約定アルモノヲシテ特別ノ方法ニ依リ之レヲ遞送配達セシムルモノトス

第一百六條 貨幣封入郵便物ハ其重量ニ從ヒ第一種郵便物ノ稅ヲ前納シ別ニ封入ノ金額送達ノ路程ニ從ヒ貨幣遞送賃及配達賃ヲ通貨ニテ納ム可シ但貨幣遞送賃ハ差出人ニ於テ前納シ配達賃ハ受取人ヨリ納ム可シ

第一百七條 貨幣遞送賃及配達賃額ハ〔驛遞總官〕各郵便局ニ揭示スベシ

第一百八條 封入ノ金額ハ三十圓ニ超過ス可ラス

第一百九條 封入ノ金額ハ其郵便物ノ表面ニ明記ス可シ

例 條 便 郵

第一百十條 貨幣封入郵便物ハ差出人ニ於テ同一ノ印判ヲ以テ四所以上封印ヲ捺スベシ

第一百一條 同一ノ差出人ヨリ同一ノ受取人ヘ差出ス貨幣封入郵便物ハ一日一個ニ限ルベシ

第一百十二條 貨幣封入郵便物ハ其表記ノ金額及ヒ封印ヲ証トシテ受授ス可シ

第一百十三條 貨幣封入郵便物ヲ差出スキハ郵便局ニ設ケアル員數証書用紙ニ式ノ如ク記載シ其郵便物ノ封印ニ用ヒタル印判ヲ捺シ郵便物及貨幣遞送賃ト共ニ之レヲ主務者ニ交付シ印刷シタル式紙ニ郵便局ノ印ヲ捺シ其主務者記名調印セル受取証書ヲ受領ス可シ

第一百十四條 本人ノ封印ヲナシタル貨幣封入郵便物ヲ代人ヲ以テ差出シ員數証書ニ其代人印ヲ捺スキハ之レト同一ノ印ヲ其郵便物ニ四所以上添捺スベシ

例 條 便 郵

第一百十五條 貨幣封入郵便ニアラザル郵便物中貨幣封入アル郵便局ニテ見出シ又ハ推察スルキハ之レヲ貨幣封入郵便トシテ取扱ヒ到達地ノ郵便局ニテ其受取人ヲ召喚シ或ハ遞送約定アルモノヲ以テ配達シ受取人ニ開封セシメ封入ノ金額ニ從ヒ差立地ヨリノ路程ニ應シタル貨幣遞送賃及配達賃ヲ受取人ヨリ徴収スベシ

第一百十六條 貨幣遞送賃又ハ配達賃ヲ受取人ニ於テ納メサルキハ其郵便物ヲ受取ヲ得ス

其郵便物ハ差立人ニ還付シ其額并還付ノ貨幣遞送賃及配達賃ヲ徴収スベシ

第一百十七條 貨幣封入郵便物配達シ能ハズ之レヲ差出人ニ還付スルキハ更ニ相當ノ貨幣遞送賃及前後ノ配達賃ヲ徴収ス可シ

第一百十八條 貨幣封入ノ郵便物ニ屬スル証書ハ証券印稅ヲ納ムルニ及ハズ

第一百十九條 貨幣封入郵便物ヲ受取リタルモノハ其貨幣遞送賃又ハ配達賃ノ納付ヲ拒ム可ラス

第一百二十條 貨幣封入郵便ニ事故ヲ生シ損失ヲ受クル者アルモ(驛遞局)ハ之レヲ償フノ責ニ任セズ

第一百二十一條 郵便局主務者ノ疎虞懈怠ニ因リ貨幣封入郵便物ヲ失ヒタルキハ主務者ヲシテ其貨幣ヲ償ハシム可シ

第一百二十二條 貨幣封入郵便物ヲ遞送配達中失ヒタルキハ強盜難其他災變ニ罹リ看守者保護シ能ハザル實証アルモノ、外約定人ヲシテ其貨幣ヲ償ハシム可シ

第十一章 郵便沒書

第一百二十三條 郵便沒書ハ配達シ能ハズ又還付シ能ハザル郵便物ヲ(驛遞局)ニ沒入スルモノトス

第一百二十四條 (驛遞總官)ハ沒書ヲ開封シ其文書ニ就テ更ニ配達又ハ

還付ヲ試マシメ尙配達又ハ還付シ能ハザルモノハ新聞紙ヲ以テ之レヲ公告スベシ

第一百二十五條 沒書ハ公告ノ日ヨリ一ケ年間(驛遞局)ニ保存スベシ

沒書中貨幣或ハ諸證書又ハ有價ノ物品アルキハ(驛遞局)ノ帳簿ニ登記シ三ケ年間其沒書ヲ保存スベシ但保存シ難キ物品ハ之レヲ賣却シ其代金ヲ預置スベシ

第一百二十六條 沒書ヲ一ケ年間ニ請求スルモノナキトキ及沒書中ノ貨幣諸證書有價ノ物品又ハ其賣却代金ヲ三ケ年内ニ請求スルモノナキトキハ之レヲ沒入スベシ

第一百二十七條 沒書中ノ貨幣諸證書有價ノ物品又賣却代金ヲ三ケ年内ニ請求スルモノアルキハ之レヲ還付シ諸證書ハ手数料ヲ徴収セズト雖モ貨幣或ハ有價ノ物品ハ其價格十分一ヲ手数料トシテ徴収ス可シ但其額ハ五圓ニ超過スルヲ得ス

第二百二十八條 沒書ノ受取方ヲ請求スルモノハ其受取人又ハ差出人
タルヲ書面又ハ口頭ヲ以テ証スベシ但(驛遞局ニ於テ証人ヲ要スル
キハ之レヲ拒ム可ラス

第十二章 郵便爲替

第二百二十九條 郵便爲替ハ(驛遞總官)ノ指定スル郵便局ニ於テ取扱フ
モノトス

第三百十條 爲替ヲ取扱フ郵便局ニ於テハ(驛遞總官)新聞紙ヲ以テ公
告ス可シ

第三百十一條 爲替証書一枚ノ金額ハ三十圓以下トシ端數ハ厘位ヲ
限リトス

第三百十二條 爲替料ハ(驛遞總官)之レヲ定メ新聞紙ヲ以テ公告シ及
爲替ヲ取扱フ郵便局ニ揭示ス可シ

第三百十三條 同一ノ差出人ヨリ同一ノ受取人ニ宛テ同一ノ郵便局

ニ於テ拂渡スベキ爲替ノ振出ハ一日金額三十圓ニ超過ス可ラス

第三百十四條 爲替差出人ハ郵便局ニ設ケアル爲替願書用紙ニ式ノ

如ク記載調印シ爲替金及爲替料ト共ニ先ツ之レヲ主務者ニ交付シ
後ニ爲替証書ヲ受領スヘシ

第三百十五條 爲替証書ハ其差出人ヨリ受取人ニ送付スヘシ

第三百十六條 爲替差出人ハ其振出局ニ爲替金ノ返戻ヲ請求スルヲ
得但爲替料ハ返付セス

第三百十七條 爲替受取人其爲替証書ニ記載シタル拂渡局ニテ爲替

金ヲ受取ルニ不便ナルキ又爲替差出人其振出局ニ爲替金ノ返戻ヲ
請求スルニ不便ナルキハ(驛遞局)ニ其証書ヲ納付シテ書換ヲ請求シ

更ニ爲替金ヲ請取ルニ便ナル局ニ宛テタル証書ヲ受クルヲ得

第三百十八條 爲替金ノ拂渡及返戻ハ其爲替書ト引換ニ限ル可シ但
郵便局ニ於テ証人ヲ要スルキハ之ヲ拒ム可ラス

第三百三十九條 爲替請取人ハ其爲替證書ニ式ノ如ク記名調印スヘシ
爲替差出人爲替金ノ返戻ヲ受クルルキ亦同シ

第四百十條 爲替報知書ニ記載セル諸件ヲ明瞭ニ答ヘ能ハサルモノ
ハ其爲替金ヲ受取ルヲ得ス

第四百十一條 代人ヲ以テ爲替金ヲ受取ルモノハ其爲替證書ノ裏面
ニ委任文ヲ記載シ記名調印シ且代人ハ第三百三十九條ノ手續ヲ爲ス
可シ

第四百十二條 官衙社寺會社ニ宛テタル爲替金ヲ受取ルルキハ其爲替
證書ノ裏面ニ官衙社寺會社ノ名稱ヲ記シ其印ヲ捺シ且之レヲ受取
ル所屬人ハ第三百三十九條ノ手續ヲ爲スベシ

第四百十三條 官衙社寺會社ノ受取ル可キ爲替金ニシテ其官衙社寺
會社ノ名稱ヲ附記シ其所屬人ニ宛テタルルキ宛名人自ラ受取ル能ハ
ズ又第四百十一條ニ依ル能ハサルルキハ第四百十二條ニ依ルヲ得

第四百十四條 官衙社寺會社若クハ其所屬人ノ名ヲ以テ差出シタル
爲替金ノ返戻ヲ受クルルキモ第四百十二條第四百十三條ノ手續ニ依
ル可シ

第四百十五條 爲替證書ノ効用ハ其日付ヨリ百二十日ヲ限リトス

第四百十六條 効用ヲ失ヒタル爲替證書ハ差出人又ハ受取人ヨリ驛
遞局ニ納付シ其書換ヲ請求ス可シ

第四百十七條 爲替證書ノ効用ヲ失ヒタル日ヨリ二ヶ年以内ニ其書
換ヲ請求セザルルキハ驛遞總官新聞紙ヲ以テ公告ス可シ

其公告ノ日ヨリ三ヶ年内ニ爲替證書ノ書換ヲ請求スルルキハ其爲替
金十分ノ一ヲ手数料トシテ徴収ス可シ

其公告ノ日ヨリ三ヶ年ヲ過クルモ尙ホ其爲替證書ノ書換ヲ請求セ
ザルルキハ其爲替金ヲ没入ス可シ

第四百十八條 爲替證書ヲ失ヒタルルキ又ハ汚斑毀損レ判明ナラザル

郵 便 條 例

時ハ差出人ニ於テ証人ヲ立テ(驛遞局)ニ其事由ヲ証明シ更ニ再度ノ証書ヲ請求ス可シ

第四百十九條 爲替金ヲ返戻シ又ハ証書ヲ書換ヘ或ハ再度ノ証書ヲ交付スルハ其原証書ニ對スル報知書ヲ取戻シタル後ニ限ル可シ

第四百十條 爲替證書ノ書換又ハ再度ノ証書ヲ請求スルキハ更ニ相當ノ爲換料ヲ納ム可シ但郵便遞送中ニ生シタル事故ニ因ルモノハ更ニ爲替料ヲ納ムルニ及バス

爲替證書ノ書換及再度ノ証書ヲ同時ニ請求スルモ兩様ノ爲替料ヲ納ムルニ及バス

第四百十一條 再度ノ爲替證書ヲ受領セシ後前キニ失ヒタル爲替証書ヲ見出シタルキハ之ヲ(驛遞局)ニ納付スベシ

第四百十二條 爲替資金ノ都合ニ因リ爲替金ノ渡方順延スルヲアルヘシ

第四百十三條 爲替証書又ハ報知書ニ失誤アルカ或ハ其報知書未達

ノキハ爲替金ノ渡拂ヲ延引スベシ

第四百十四條 爲替金ノ受渡ニ屬スル証書ハ証券印税ヲ納ムルニ及ハス

第四百十五條 郵便爲替ニ事故ヲ生シ損失ヲ受クルモノアルモ(驛遞局)ハ之レヲ償フノ責ニ任セス

第四百十六條 此章ノ規則ニ從ヒ替爲金ヲ渡シタル後ハ其渡方ニ付キ異議ヲ唱フルモ(驛遞局)ハ其責ニ任セス

第十三章

(驛遞局)貯金(二十年告示第三十五號ヲ以テ驛遞局ヲ郵便局ト心得シム)

第四百十七條 (驛遞局)貯金ハ(驛遞總官)ノ指定スル貯金預所ニ於テ取扱フモノトス

第四百十八條 貯金預所ハ(驛遞總官)新聞紙ヲ以テ公告スベシ
第四百十九條 一人一度ノ預ケ金額ハ拾錢以上トシ端數ハ厘位ヲ限

郵 便 條 例

例 條 便 郵

リトス

一日ノ預金額ハ五拾圓以下トス

第百六十條 一度ニ五拾圓以上ヲ預ケントスルモノハ其都度貯金預所ニ設ケアル願書用紙ニ式ノ如ク記載調印シ(驛遞總官)ノ認可ヲ請フ可シ

第百六十一條 貯金ニハ利子ヲ付ス其利子ノ割合ハ(驛遞總官)之レヲ定メ新聞紙ヲ以テ公告シ且貯金預所ニ揭示スベシ但拾錢未滿ノ端金ニハ利子ヲ付セス

第百六十二條 貯金ヨリ生シタル利子ハ毎年六月十二月ニ於テ之レヲ元金ニ加ヘ(驛遞局)ノ原簿ニ登記スベシ

第百六十三條 貯金ハ預リタル月ト拂戻ス月ハ利子ヲ付セス但(驛遞局)ヨリ拂戻證書ヲ發シタル月ヲ以テ拂戻月ト爲スベシ

第百六十四條 貯金ヲ拂戻スル位未滿ノ端數ハ切捨ツベシ

第百六十五條 始テ預金ヲ爲スモノハ貯金預所ニ設ケアル預ケ願書用紙ニ式ノ如ク記載調印シ之レヲ其貯金預所ニ出スベシ但印判ヲ所持セサルモノハ引受人ヲ立ツベシ

第百六十六條 貯金預ケ人ハ貯金預所ニ於テ貯金通帳ヲ受領シ其表紙ニ式ノ如ク記載調印シ此通帳ヲ預ケ金ヲ爲ス毎ニ預ケ金ト共ニ貯金預所ノ主務者ニ交付シ預ケ金ノ記入ヲ受ケ其通帳ヲ所持ス可シ

第百六十七條 貯金通帳ハ預ケ金受授ノ証ト爲スベシ

第百六十八條 貯金預所ニ於テ預金ヲ受取ルルハ通帳ニ其金額及年月日ヲ記入シ貯金預ケ所ノ印ヲ捺シ且主務者記名調印ス可シ

第百六十九條 一ノ貯金預所ヨリ受領シタル通帳ヲ以テ何レノ貯金預金ニモ預ケ金ヲ爲スヲ得

第百七十條 既ニ貯金通帳ヲ受領シ所持セルモノハ何レノ貯金預所

例 條 便 郵

ニ於テモ別ノ通帳ヲ受領スルヲ得ズ

第七十一條 貯金通帳金額記載ノ部餘白ナキニ至リ更ニ通帳ヲ要スルハ(驛遞局ニ其通帳ヲ差出シ再渡ノ通帳ヲ請求ス可シ

第七十二條 貯金預ケ人ハ滿六ヶ月毎ニ驛遞局ニ貯金通帳ヲ差出シ原簿照合及利子記入ヲ受ク可シ

第七十三條 預ケ金ヲ爲スルハ(驛遞局)ノ原簿ニ登記シ且貯金領収通知書ヲ其預ケ人ニ送達スベシ

第七十四條 貯金預ケ人ハ預ケ金ヲ爲シタル日ヨリ左ノ期日内ニ貯金預収通知書到達セサルハ其期日ヨリ十五日内又到達スルモ記載ノ金額並年月日ニ相達アルハ到達ノ日ヨリ十五日内(驛遞總官)ニ宛テ其申告書ヲ出スベシ但申告書ハ郵便局ニ出シ其受取証書ヲ受領ス可シ

一東京

十日

一東京ヨリ百里未滿

三十日

一東京ヨリ百里以外

六十日

第七十五條 第七十四條ノ申告ヲ出サ、ルハ其預ケ金額驛遞局ノ原簿ニ登記ナキカ或ハ原簿登記ノ金額年月日ト其預ケタル金額年月日ト符合セサルモ(驛遞局)ハ原簿ニ登記シタルモノ、外其責ニ任セス

第七十六條 貯金預ケ人ハ何レノ貯金預所ニ於テモ其貯金全額若クハ幾分ノ拂戻ヲ請求スルヲ得但未ダ元金ニ加ハサル利子ハ貯金ノ全額ヲ拂戻スニ非レバ之レヲ受取ルヲ得ズ

第七十七條 貯金拂戻願人ハ貯金預所ニ設ケアル拂戻願書用紙ニ金額其他式ノ如ク記載調印シ通帳ヲ添ヘ貯金預所ヲ經由シテ(驛遞局)ニ出スベシ但貯金預所ヨリ通帳ノ受取証書ヲ受領ス可シ

第七十八條 第七十七條ノ拂戻願書及ビ通帳ヲ(驛遞局)ニ於テ領

収シタルトキハ貯金拂戻證書ヲ拂戻願人ニ送達スベシ

第七十九條 貯金ノ全額ヲ拂戻スルハ通帳ヲ返付セス又其幾分ヲ拂戻スルハ(驛遞局ニ於テ其通帳ニ拂戻金額及年月日ヲ記載シ官印ヲ捺シ且主務者記名調印シ貯金預所ヲ經テ之レヲ返付ス可シ

第八十條 貯金拂戻願人ハ拂戻證書ニ式ノ如ク記名調印シ貯金預所ニ交付シ拂戻金ヲ受取ル可シ

第八十一條 代人ヲ以テ拂戻金ヲ受取ルモノハ拂戻證書ノ裏面ニ委住文ヲ記載シ記名調印シ且代人ハ第八十條ノ手續ヲ爲ス可シ

第八十二條 拂戻金ハ其拂戻證書ノ日付ヨリ左ノ期日内ニ受取ル可シ期日ヲ失スルハ更ニ(驛遞局ニ其證書ノ書換ヲ請求ス可シ但郵便遞送中ニ生シタル事故ニ因ルモノハ此限ニアラズ

一東京

十五日

一東京ヨリ百里未滿

廿五日

一東京ヨリ百里以外

四十日

第八十三條 貯金預ケ人死亡シタルルキハ其相續人ニ於テ証人ヲ立テ相續人タルヲ証スル書面ヲ出シ且其相續人ハ第七十七條ノ手續ヲ爲シ貯金拂戻ヲ請求ス可シ

第八十四條 預ケ金ヲナスル引受人ヲ立ツルモノハ預ケ願書及拂戻願書其他調印ヲ要スル書類ニ氏名ヲ記シ其引受人亦記名調印スベシ

第八十五條 社寺會社ノ名ヲ以テ預ケ金ヲ爲スルハ預ケ願書及拂戻願書其他調印ヲ要スル書類ニ社寺會社ノ名稱ヲ記シ其印ヲ捺シ且擔當者一名記名調印スベシ

第八十六條 二人以上共同シテ預ケ金ヲ爲スルハ預ケ願書及拂戻願書其他調印ヲ要スル書類ニ其總代人一名記名調印シ且共同者中ノ一名記名加印スベシ

第八十七條 社寺會社及ビ共同ノ貯金ハ其社寺會社若クハ其總代人ヲ以テ一個ノ預ケ人ト看做スベシ

第八十八條 貯金預ケ人氏名變換改印轉籍轉住スルキハ其屆書ヲ驛遞局ニ出ス可シ

第八十九條 貯金預ケ人ノ引受人社寺會社ノ貯金擔當者共同貯金ノ加印者氏名變換改印轉籍轉住スルキハ貯金預ケ人連印引受人アルケ人ハ氏名ノ屆書ヲ(驛遞局)ニ出ス可シ

第九十條 預金預ケ人ノ引受人社寺會社ノ貯金擔當者共同貯金ノ加印者變更アルキハ後任者及貯金預ケ人連印引受人アル貯金預ケ人ハ氏名ノミ連記ノ屆書ヲ驛遞局ニ出ス可シ

第九十一條 共同貯金ノ總代人ヲ變更セントスルキハ前任後任ノ總代及加印者連印ノ願書ヲ驛遞局ニ出スベシ但前任ノ總代人連印スル能ハサルキハ証人ヲ立ツ可シ

第九十二條 貯金預ケ人其引受人ヲ解カントスルキハ印鑑ヲ添ヘ其引受人連印ノ屆書ヲ(驛遞局)ニ出スベシ

第九十三條 貯金通帳ヲ失ヒタルキハ速ニ其屆書ヲ驛遞局ニ出ス可シ

第九十四條 貯金通帳又ハ貯金拂戻證書ヲ失ヒタルキ或ハ汚斑毀損シテ判明ナラサルキハ証人ヲ立テ(驛遞局)ニ其事由ヲ證明シ再度ノ通帳又ハ拂戻證書ヲ請求ス可シ

第九十五條 貯金通帳ヲ失ヒタルキハ再度ノ通帳ヲ發シタル日ヨリ九十日間其貯金ノ拂戻ヲ請求スルヲ得ス

第九十六條 再度ノ貯金通帳ヲ受領セシ後前キニ失ヒタル通帳ヲ見出シタルキハ舊通帳ヲ(驛遞局)ニ納付ス可シ

第九十七條 (驛遞局)ニ貯金通帳ヲ差出シ又ハ再度ノ通帳又ハ貯金拂戻ヲ請求シタル場合ニ於テ第七十四條ニ記載シタル期日内ニ

例 條 便 郵

通帳返付ナキカ又ハ再度ノ通帳或ハ拂戻証書到達セサルトキハ(驛遞總官)ニ宛テ其申告書ヲ出スヘシ

第百九十八條 貯金通帳ハ賣買讓與又ハ書入質入スルヲ許サス

第百九十九條 (驛遞局)又ハ貯金預所ニテ証人ヲ要スルキハ貯金預ケ之レヲ拒ム可ラス

第二百條 貯金ノ受渡ニ屬スル証書ハ証券印税ヲ納ムルニ及ハス

第二百一條 貯金拂戻方延滞シ爲メニ預ケ人ノ損失ヲ生スルモ(驛遞局)ハ之レヲ償フノ責ニ任セス

第二百二條 此章ノ規則ニ從ヒ貯金ヲ拂戻シタル後ハ其拂戻方ニ就キ異議ヲ唱フルモ(驛遞局)ハ其責ニ任セス

第十四章 外國郵便

第二百三條 凡ソ外國ニ差立ル郵便物別テ五項ト爲ス

一 書狀

例 條 便 郵

二 郵便葉書及往復葉書(十七年第三十三號布告及以下追加)

三 書籍各種ノ印刷物寫真畫圖

四 詞訟上及商用上ノ書類

五 商品ノ見本

第二百四條 何品ヲ問ハス此章ノ規則ニ牴觸セサルモノハ第一項郵便物トナスヲ得

第二百五條 第三項第四項第五項郵便物ハ封緘セサルモノトス之レヲ封緘スルキハ第一項郵便物トナスベシ

第二百六條 第三項第四項第五項郵便物ニ音信文又ハ暗號隱語等ヲ筆書スルキハ第一項郵便物ト爲スベシ

第二百七條 第三項第四項第五項郵便物ヲ第一項郵便物ト合裝スルキハ總テ第一項郵便物ト爲スベシ

第二百八條 第三項第四項郵便物ハ一個ノ重量ニキログラムニ凡五百三十二

郵 便 條 例

分五厘ニ超過ス可ラズ
 第二十九條 第五項郵便物ノ大サハ長二十「センチメートル」凡曲尺六寸六分六厘幅十「センチメートル」凡三寸三分三厘又其重量ハ二百五十「グラム」凡六十六分五厘ニ超過ス可ラズ
 第二十七條 第三項第四項第五項郵便物ヲ合裝スルキ其重量ハ第二十九條ノ制限ニ超過ス可ラズ但第五項郵便物ノ大サ及重量ハ第二十九條ニ據ルベシ
 第二十一條 第二項郵便物ハ萬國郵便聯合葉書往復葉書ヲ用フ可シ同上布告ヲ以テ(葉書)ノ下(往復葉書)ノ四字ヲ加フ
 第二十二條 第二項郵便物第五條ニ記載シタル所爲アルキハ之レヲ差出人ニ還付ス可シ
 第二十三條 第五項郵便物ハ賣價ヲ付セサルモノニ限ル可シ
 第二十四條 左ニ記載スル者ハ外國ニ差立ル郵便物トナス可ラズ

郵 便 條 例

一 貨幣又ハ高價ノ物品
 一 關稅ヲ拂フベキ物品
 一 流動物、流動腐敗シ易キ者、孵化スベキ物、動物、植物、鋒刃器、硝子器、陶器等他ノ郵便物ヲ傷害スベキ物品(十九年二月第四號布告ヲ以テ第三項ヲ改メテ本項及次ノ一項トナス)
 一 第十六條第一項第三項及第四項ニ記載シタル物品
 第二十五條 郵便聯約國ニ差立ル第三項第四項第五項郵便物ハ少クモ其郵便稅ノ一部分ヲ前納シタルモノニ限ルヘシ
 第二十六條 郵便聯約國外ニ差立ル郵便物ハ總テ郵便稅完納ニ限ルヘシ但到達地ニ於テ課スヘキ郵便稅ハ此限ニアラス
 第二十七條 第二十八條第二十九條第三十條第三十三條第二十五條第二十六條ニ背戾スル郵便物ハ差出人ニ還付シ未納稅又ハ不足稅ハ第十七條ノ割合ニ從ヒ其額ノ二倍ヲ徵収ス可シ

第二百十八條 書留郵便物ハ郵便稅書留手数料共前納ニ限ルヘシ
 第二百十九條 郵便聯約國ニ差立ル書留郵便物ハ受取人ノ受取証書返送ヲ望ムヲ得之レヲ望ムトキハ郵便稅書留手数料ノ外増手数料ヲ前納スヘシ

第二百二十條 郵便稅書留手数料及増手数料ハ日本國郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス

第二百二十一條 郵便稅書留手数料ノ割合郵便物ヲ差立得ヘキ國名及ヒ郵便爲替小包郵便ニ關スル事項ハ(驛遞總官)公告スヘシ

第二百二十二條 書留郵便物紛失ノ償金ヲ拂フヘキ約定アル國ニ差立ル書留郵便ヲ内國又ハ同上約定アル外國ニテ遞送中紛失シタルトキハ天災ニ因ルモノ、外之レヲ紛失シタル國ノ(驛遞局)ニ於テ差出人又ハ差出人ノ望ニヨリ受取人ニ五十フランク一フランクハ凡金貨二十錢ニ付シテ凡金貨二十錢ノ若クハ他ノ貨幣ニテ同額ノ償金ヲ拂フ可シ

書留郵便物紛失ノ償金ヲ拂フヘキ約定アル外國ヨリ内國ニ到達スル書留郵便物ヲ内國遞送中紛失シタルトキ亦同シ

第二百二十三條 軍艦及海軍所屬ノ船舶ヲ除キ凡ソ内國ヲ發シ外國ニ航スル船舶ノ所有主若クハ其代理者ハ(驛遞局)又ハ郵便局ヨリ左ニ記載シタル運送賃額ヲ以テ郵便物ノ運送ヲ托スルトキハ之ヲ拒ム可ラス但別段ノ約定アルモノハ此限ニアラス

一 第一項郵便物ハ一箇二錢ニ超過セサル額
 一 第二項以下ノ郵便物ハ一個壹錢ニ超過セサル額

第二百二十四條 第二十六條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條ノ規規則ハ此章ノ郵便葉書往復葉書ニ亦適用ス可シ

第二百二十五條 第十二條第十九條第二十條第二十一條第一項第三項第二十二條第三十五條第四十五條第四十八條第五十一條第五十

九條第六十一條第六十三條第六十四條第六十六條〔第二百二十二條ノ罰金ヲ除ク〕
第六十九條第七十條第七十一條第七十二條第七十三條第百條及第
十一章ノ規則ハ内國ヨリ外國ニ差立ル郵便物ニ亦適用スヘシ

第二百二十六條 第二十一條第一項第二項第二十五條第四十四條第
四十九條第五十一條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條
第五十七條第五十八條第六十三條第六十六條〔第二百二十二條ノ罰金ヲ除ク〕第七十
三條第九十九條第百條第百一條第百四條第一項及第八章ノ規則ハ
外國ヨリ内國ニ到達スル郵便物ニ亦適用スヘシ

第十五章 罰則

第二百二十七條 第十六條第二十三條第三十四條第六十九條第七十
條第二百十四條ヲ犯シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
第二百二十八條 第五十四條第六十三條第六十四條ヲ犯シタルモノ
ハ五錢以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二百二十九條 第五十七條第五十八條ヲ犯シタルモノハ二圓以上
二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十條 第六十七條ヲ犯シタルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰
金ニ處ス
遞送配達ヲ以テ營業ト爲スモノハ二圓以上二年以下ノ重禁錮ニ處
シ五圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十一條 第六十八條第二百二十三條ヲ犯シタルモノハ二圓
以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十二條 懈怠故意ヲ問ハス第七十一條第七十二條ヲ犯シタ
ルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十三條 郵便封皮葉書往復葉書帶紙ヲ偽造變造シ又ハ其情
ヲ知テ之ヲ使用シタルモノハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五
圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十四條 已ニ屬セサル郵便物ヲ開封シ又ハ毀損汚穢シ或ハ私用賣却抑留隱匿拋棄シ若クハ之ヲ受取人ニアラサルモノニ交付シ及其情ヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタルモノハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ付加ス

郵便事務ヲ奉スルモノハ自ラ犯シタルトキハ官吏傭人約定人ヲ論セス本刑ニ一等ヲ加フ

第二百三十五條 郵便事務ヲ奉スルモノ自己若クハ他人ノ爲メニスルヲ問ハス郵便物ヲ不當ノ方位ニ遞送シタルトキハ第二百三十四條第一項ノ刑ニ一等ヲ加フ

第二百三十六條 疎虞懈怠ニ因テ郵便物ヲ失ヒタルモノハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
書留郵便ニ係ルトキハ二圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十七條 有税ヲ以テ免稅トシ其他詐偽ヲ以テ郵便稅ヲ免レタルモノハ二圓以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ付加ス
郵便事務ヲ奉スル者自ラ犯シ又ハ情ヲ知テ其郵便物ヲ遞送配達シ或ハ自己ノ受ケタル郵便物ノ未納稅又ハ不足稅ヲ免レタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

第二百三十八條 不良ノ事ヲ行ハシカ爲メ郵便ヲ用ヒタルモノハ十日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ付加ス

行フ處不良ノ罪重キモノハ重キニ從テ論ス

第二百三十九條 (驛遞總官ノ認可ヲ得スシテ郵便物ニ驛遞局認可ノ文字ヲ用ヒタルモノハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
郵便運送ニ使用セサル船車ニ郵便ノ記章又ハ郵便ノ文字ヲ用ヒタ

郵便條例

ルモノ亦全シ

第二百四十條 未納稅又ハ不足稅及別配達料解船料貨幣遞送配達賃私書函貸與料ヲ五日內ニ納メサルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

郵便事務ヲ奉スル者徵収スヘキ郵便稅別配達料解船料貨幣遞送配達賃私書函貸與料ヲ徵収セサルトキ亦全シ

第二百四十一條 郵便事務ヲ奉スル者郵便物ニ貼用セル郵便切手ヲ剝取ルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其未タ消印ヲ爲サ、ル切手ヲ剝取ルモノハ刑法竊盜ノ本條ニ照ラシテ處斷ス

第二百四十二條 郵便爲替事務ヲ奉スル者郵便爲替及爲替料ヲ領収セスシテ爲替證書ヲ振出シ又ハ爲替證書ヲ受取ラスシテ爲替金ヲ渡

シタルトキハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(驛遞局)貯金ノ事務ヲ奉スル者預金ヲ領収セスシテ貯金通帳ニ預ケ金ノ記入ヲ爲シ又ハ抽戻證書ヲ受取ラシテ貯金ヲ排渡シタルトキ亦同シ

郵便條例

第二百四十三條 郵便事務ヲ奉スルモノ諸般ノ計數ヲ偽ルルハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十四條 郵便物ニ押用セル印面ヲ變換シタルモノハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十五條 郵便配達人配達先ニ於テ謝儀ヲ要求シタルトキハ五十錢以上一圓九拾五錢以下ノ料料ニ處ス

第二百四十六條 郵便函郵便行囊其他郵便ノ器械ヲ毀損汚穢シタルモノハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰

金ヲ附加ス

第二百四十七條 渡船人郵便物ノ渡津ヲ怠慢遅緩シタルトキハ五拾錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二百四十八條 第二百三十三條第二百三十七條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサルモノハ未遂犯罪ノ例ニ照ラシテ處斷ス

第二百四十九條 第二百三十條第二百三十三條第二百三十七條第二百四十一條第二百四十二條第二百四十三條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第二百五十條 本章罰則ノ外刑法ニ正條アル者ハ刑法ニ據テ處斷ス

(一) 郵便線路里程表〔明治十四年九月十四日太政官達第七十七號官省院

〔使〕廳府縣

(二) 官報ヲ購求シ更ニ郵便ニ差出ストキ取扱方〔明治十一年十一月

九日太政官布達第三十六號〕

(三) 地方郵便局電信局便宜合併ヲ得セシム〔明治十九年十一月十六

日〔同十七日布告〕閣令第三十號

(四) 郵便受取所驛遞貯金預所及郵便支局ヲ置キ事務取扱方ヲ示

ス〔明治十九年四月二十二日遞信省令第六號〕

(五) 郵便物受取人又居所不分明ノトキ取調方〔明治二十年五月十九

日遞信省訓令第四號北海道廳府縣〕

(六) 郵便物ヲ積載セル船舶難破等ニ罹リ航送シ能ハサル場合ニ

於テ戶長浦役人處分法〔明治二十一年六月九日遞信省訓令第七號北

海道沿海府縣並滋賀縣〕

(七) 郵便爲替細則ヲ定ム〔明治十八年九月七日農商務省告示第二十號〕

(八) 郵便往復葉書使用法〔明治十七年十二月二十七日農商務省告示第三

十三號〕

(九) 郵便條例中驛遞總官ヲ遞信大臣驛遞局長ヲ遞信管理局長ト

心得シム〔明治十九年七月一日遞信省告示第六十六號〕

(十) 郵便條例中換稱心得方〔明治廿年三月廿六日遞信省告示第卅五號〕

(十一) 郵便小爲替規定ヲ改正ス〔明治廿年六月廿五日遞信省告示第百十七號〕

(十二) 定時刊行休廢刊改題届出方〔明治二十年九月二日遞信省告示第百五十五號〕

(十三) 定時刊行印刷物ノ第三種郵便取扱ノ認可出願方〔明治二十年十月二日遞信省告示第百九十二號〕

(十四) 郵便切手賣下人心得ヲ定ム〔明治二十一年三月五日遞信省告示第二十六號〕

電信條例

第一章 電報

第一條 凡電報別テ三種ト爲ス

一 官報

二 局報

三 私報

第二條 官報局報私報各別テ七類ト爲ス

一 通常電報

二 至急電報

三 追尾電報

四 同文電報

五 照校電報

六 受信電報

七 返信料前納電報

第三條 電報ヲ傳送スルノ順序ハ官報ヲ先トシ局報之ニ次キ私報又之レニ次クモノトス

第四條 電信局長ニ於テ法律規則ニ違背シ又ハ治安ヲ妨害シ風俗ヲ

壞亂スルモノト認ムル私報ハ其傳送ヲ止ムヘシ

第五條 政府ハ時機ニ依リ線路又ハ地方又ハ語辭ヲ限リ私報ヲ停止スルコトアルヘシ

第六條 凡電報ヲ書載スルニハ普通辭又ハ秘辭隱語ヲ問ハス和文ハ片假名及數字ヲ用ヒ歐文ハ羅馬字及亞刺比亞字ヲ用フヘシ

第七條 電信局長ニ於テ私報ニ用フル秘辭隱語ノ解釋又ハ合符原本ヲ要スルトキハ之レヲ差出スヘシ

第三章 電報料

第八條 凡ソ電報料ハ國內ヲ通シテ同一ト爲ス但一市内及壹岐對馬ニ發着スルモノハ此限ニアラス

第九條 電報料及手数料ハ別ニ布達ヲ以テ之レヲ定ム

第十條 電報料及手数料ハ電信切手ヲ以テ納ムルモノトス其切手ハ賴信紙ニ貼付スヘシ但返信電報料ノ前納及尋問電報料ノ仮納ハ貼

付スルノ限ニアラス

第十一條 電信中央局及分局並電信切手賣下所ノ設ケアラサル地ヨリ郵便ニ付シテ電報ヲ發出スルトキハ郵便切手ヲ以テ電信切手ニ代用スルコトヲ得其郵便切手ハ賴信紙ニ貼付セサルモノトス

第十二條 電報料及手数料ニ用ヒタル電信切手ハ(電信中央局及分局)ニ於テ消印スヘシ

第十三條 電報料及手数料ハ過納アルモ已ニ電信切手ニ消印シタル後ハ之レヲ還付セス

第十四條 第四條ニ據リ私報ノ傳送ヲ止ムルトキハ其已ニ納メタル料金を還付セス

第十五條 電報取扱ノ過失ニ因テ甚シク遅延シ若クハ到達セサルモノハ其料金を還付ス照校電報ニシテ傳送ノ際誤謬ヲ生シテ其用辨

ヲ闕キタルト判然タルモノ亦同シ

第十六條 料金還付ノ請求ハ發信ノ日付ヨリ六十日以内ニ電信局長ニ申出ツヘシ此期限ヲ過クルトキハ一切之レヲ受理セス

第十七條 電報料及手數料ニ不足アルトキハ電信中央局及分局ニ於テ其電報ヲ傳送スルモ其不足ノ料金ニ倍ヲ發信人ヨリ追納セシム可シ

第十八條 發信人又ハ受信人ヨリ納ムヘキ料金ヲ七日以内ニ徵収シ難キトキハ發信人ノ納メサルモノハ受信人ヨリ受信人ノ納メサルモノハ發信人ヨリ徵収スヘシ

第四章 電信切手

第十九條 電信切手ハ日本政府ニ於テ發行セシモノタルヘシ

第二十條 電信切手ハ電報料及手數料納濟ノ証トナスモノトス

第二十一條 電信切手ヲ賣ルモノハ電信局長ノ免許ヲ受ケ電信切手

賣下所ノ標札ヲ掲クヘシ

第二十二條 電信切手ハ電信中央局及分局並電信切手賣下所ノ外ニ於テ賣買ス可ラス

第二十三條 電信切手ハ其額面ヨリ低價ヲ以テ賣ル可ラス

第二十四條 返信電報料ノ前納及ヒ尋問電信料ノ假納ニ充ツル電信切手並電信切手ニ代用スル郵便切手ヲ賴信紙ニ貼付シタルモノハ其効用ヲ失フ

第二十五條 電信切手ノ汚斑毀損又ハ不明瞭ナルモノハ其効用ヲ失フ但其未ダ使用セサルモノニ限り二人以上ノ証人ヲ立テ其理由ヲ証明シタルトキハ電信中央局及工部卿ノ告示ヲ以テ定メタル分局ニ於テ定價十分ニ減ニテ買戻スヘシ

第二十六條 電信中央局及工部卿ノ告示ヲ以テ定メタル分局ニ於テハ四枚以上連續シタル電信切手ヲ其所持人ノ請求ニ依リ定價十分

一減ニテ買戻スヘシ

第五章 電報發送

第二十七條 電報ノ傳送ハ電信中央局及支局ニ於テ之レヲ管スルモノトス

第二十八條 電信中央局及分局ノ廢置並開局時間ハ遞信大臣之レヲ告示スヘシ

第二十九條 電報ヲ依托スル時間ハ開局時間ニ限ルヘシ但至急官報ハ此限ニアラス

第三十條 發信人ノ請求アルニアラサレハ電報ノ受取證書ヲ交付セス之レヲ請求スルキハ其手数料ヲ納ムヘシ

第三十一條 官報ハ官署又ハ官吏ノ印ヲ捺押スヘキモノトス但官報タルノ確証アルキハ此限ニアラス

第三十二條 官報ノ原信ヲ證據トシテ差出スキハ其返信ヲ官報トシ

例 條 信 電

テ發送スルヲ得

第三十三條 中央電信局及ヒ分局ニ於テ私報ノ發信人タルノ證據ヲ要スルキ其發信人ハ賴信紙ノ端末ニ署名捺印スヘシ

第三十四條 電報ハ其宛名ノ家又ハ本人ニ之レヲ配達スヘシ但受取ルヘキ人名ノ指定アルモノハ此限ニアラス

第三十五條 電報ヲ受取リタルモノハ電報受取紙ニ時刻ヲ記入シ記名ノ下ニ捺印シ直チニ之レヲ配達人ニ交付スヘシ

第三十六條 宛名ノ家又ハ本人ニ屬セサル電報ノ配達ヲ受取リタルモノハ其由ヲ付箋シ直ニ之レヲ着信局ニ返付スヘシ

第三十七條 電信中央局及分局ヨリ一里ヲ超ヘサル地ニ配達スル電報ハ其電報ヲ誤テ開封シタルモノハ更ニ封緘シ其事由ヲ副書スヘシ

第三十八條 電信中央局及分局ヨリ一里ヲ超ヘタル地ニ配達スル電報ハ手数料ヲ要セス但別使配達島嶼配達解船配達ハ此限ニアラス

例 條 信 電

報ニシテ發信人ヨリ其配達方ヲ指定セサルモノハ先拂郵便ヲ以テ
遞送ス可シ

第三十九條 郵便ニテ遞送スル電報ハ其郵便稅ヲ納ムヘシ別紙又ハ
解船ヲ以テ配達スル電報ハ手數料ヲ納メ島嶼ニ配達スル電報ハ實
費ヲ納ムベシ

第四十條 受信人ニ配達シ能ハサル電報ハ着信局ニ留置キ本人或ハ
其委任ヲ受ケタル代人ヨリ請求スルルキハ之レヲ交付ス可シ若シ着
信ノ日ヨリ六十日以内ニ請求スルモノアラザルルキハ之レヲ沒書ト
爲ス可シ

第四十一條 未ダ傳送セザル電報ハ其發信人タルノ證據ヲ以テ返還
ヲ請求スルルキハ之ヲ還付スルヲアルベシ

第四十二條 電報ノ傳送ヨリ生シタル損失又ハ異議アルモ(電信局)ハ
一切其責ニ任セス

第六章 尋問改正

第四十三條 受信人電信ノ字句ニ疑惑アリテ尋問ヲ要スルルキハ其電
報ヲ請取リタルルキヨリ二十四時以内ニ之レヲ請求スルヲ得但其
料金ヲ假納スベシ

電信中央局及分局ニ於テハ其請求ニ應シ電報ヲ校正シ通信上ニ誤
謬ナキルハ假納ノ料金ヲ收入シ若シ誤謬アルルキハ之レヲ還付スベ
シ

第四十四條 發信人電報ノ字句ニ改正ヲ要スルルキハ其電信ヲ依托シ
タルルキヨリ七十二時以内ニ之レヲ請求スルヲ得但發信人タルノ
證據ヲ差出スベシ

第七章 閱覽正寫

第四十五條 發信人又ハ受信人ハ電報發着ノ日ヨリ三十日以内ニ本
人又ハ其代人タルノ證據ヲ以テ發着局ニ在ル原信ノ閱覽ヲ請求ス

ルヲ得又其原信ニ相違ナキノ証印アル正寫ヲ請求スルヲ得其
期限ヲ過キタルハ更ニ六十日以内ニ之レヲ電信局ニ請求スル
ヲ得此期限ヲ過クルハ一切之レヲ許サス原信ノ正寫ヲ請求スル
ハ其手数料ヲ納ムヘシ

第八章 電機私設

第四十六條 凡ソ電氣ノ機器ヲ以テ通信傳話及號報ヲ爲サントスル
者ハ工部卿ニ願出ツヘシ

第四十七條 私設ノ電線ハ官設ノ電線アラサル地ニ於テ一人又ハ兩
人ノ用ニ供スルモノニ限り許可スルモノトス但傳話又ハ鐵道ノ用
ニ供スルモノハ官設ノ電線アル地ニ於テモ許可スルヲアルヘシ
第四十八條 電線私設ノ許可ヲ得タルモノハ電信局ニ於テ定メタル
規約ニ從フ可シ

第四十九條 私設ノ電線ハ最寄電信分局ニ連續設置スヘシ但傳話又

ハ鐵道ノ用ニ供スルモノハ此限ニアラス

第五十條 私設ノ電線ハ他人ノ電報ヲ傳送スルヲ許サス

第九章 海外電報

第五十一條 海外電報同盟諸國ノ會議ヲ以テ定ムル所ノ萬國條約書
ニ據リテ取扱フ可シ

第十章 罰則

第五十二條 第七條ヲ犯シタルモノハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ
處ス

第五十三條 第二十二條第二十三條ヲ犯シタル者ハ二圓以上五十圓
以下ノ罰金ニ處ス

第五十四條 第三十五條第三十六條ヲ犯シタルモノハ二圓以上二十
圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十五條 第四十六條ヲ犯シタルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金

ニ處シ其機器ヲ沒収ス

第五十六條 第四十八條第四十九條ヲ犯シタルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其情狀ニ依リ電線私設ヲ禁止ス

第五十七條 第五十條ヲ犯シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上百圓以下ノ罰金ヲ付加シ其機器ヲ沒収ス

第五十八條 電報ヲ切斷セスト雖モ電氣ヲ吸引シ易キモノヲ纏繞シテ不通ニ致シ若クハ其効力ヲ妨害シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ付加ス

第五十九條 疎虞懈怠ニ因リ電信ノ機械柱木條線ヲ損壞切斷シテ電氣ヲ不通ニ致シ或ハ其効力ヲ妨害シタルモノハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

其水底電信線ニ係ル井ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十條 電信ノ柱木條線ニ紙鳶ヲ懸ケ若クハ瓦礫其他ノ雜物ヲ擲

キ又ハ柱木及測量標木ニ獸畜ヲ繫キ若クハ貼紙シ戲書シ又ハ柱木ノ記號及測量標木ヲ毀棄汚穢シタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第六十一條 政府ノ指定シタル水底電信線路内ニ於テ艦船ヲ繫泊シ又ハ漁業採藻ヲ爲シ土砂ヲ掘鑿シ又ハ電信線ノ號票ヲ毀棄シタルモノハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

政府ノ指定シタル電信線ノ號標ニ舟筏ヲ繫キ又ハ其號標ヲ毀棄シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

政府ノ指定ノシタル電信線ノ號標距離内ニ於テ前項ノ所爲ヲ行ヒ又ハ航行シタル者亦同シ

第六十二條 偽計又ハ威力ヲ以テ電信ノ傳送配達及架線其他ノ工事ヲ妨害シ若クハ之レヲ阻止シタルモノハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ付加ス

第六十三條 已レニ屬セサル電報ヲ開封シ若クハ私用シ或ハ毀損汚穢抑留隱匿シ若クハ受取人ニアラサルモノニ交付シ及ヒ其情ヲ知テ之レヲ收受シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ付加ス

第六十四條 電信切手ヲ偽造變造シ又ハ其情ヲ知テ之レヲ使用シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ付加ス

第六十五條 已ニ貼用シタル電信切手ヲ再ヒ貼用シタルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十六條 電信事務ヲ奉スル者前數條ノ罰ヲ犯シタルルキハ各本刑ニ照シ一等ヲ加フ

第六十七條 電信局長ノ許可ヲ得スシテ通信室ニ入りタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス之レヲ入レタル者ハ一等ヲ加フ

第六十八條 電信事務ヲ奉スル者私報ノ意旨ヲ漏泄シタルルキハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ付加ス但法律規則ニ從ヒ開披説明スルハ此限ニアラズ
官報及ヒ局報ノ意旨ヲ漏泄シタル者ハ一等ヲ加フ

第六十九條 電信事務ヲ奉スル者頼信紙ニ貼用シタル切手ヲ剝取タルルキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ付加ス

其未タ消印ヲ爲サ、ル切手ヲ剝取タル者ハ刑法竊盜ノ本條ニ照ラシテ處斷ス

第七十條 電信事務ヲ奉スル者故ナクシテ通信ノ依托ヲ拒ミタルルキハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十一條 疎虞懈怠ニ因リ電報ヲ遺失シ又ハ傳送配達延滯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第七十二條 配達人謝儀若クハ不當ノ賃錢ヲ要求シタルハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第七十三條 第五十八條第六十二條第六十四條第六十五條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ照ラシテ處斷ス

第七十四條 第六十九條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ附ス

(一) 軍用電信ニ係ル妨害者處分法〔明治十九年四月勅令二十一號〕

(二) 電信料及手数料ハ郵便切手ヲ以テ納メシム〔明治廿一年二月廿二日公布勅令第六號〕

(三) 電信取扱規則〔明治十八年五月七日太政官布達第七號〕

(四) 壹岐對島及朝鮮國ニ發着スル電報ノ料金并海外電報ノ國內傳送料ヲ定ム〔明治十八年五月七日太政官布達第九號〕

(五) 海外電報料〔明治十九年六月九日遞信省令第十五號〕

(六) 電信電話線私設條規〔明治二十二年三月十四日遞信省令第四號〕

(七) 民有地内建設ノ電信柱敷地手當下渡金明細表〔明治二十一年九月五日遞信省訓令第九號北海道廳府縣〕

(八) 電信條例中心得方〔明治十九年八月七日遞信省告示第七十八號〕

(九) 電信條例中電信局長等改稱心得〔明治二十二年三月二十六日遞信省告示第二十六號〕

(十) 電柱位置變更ヲ請求スル者願書差出方〔明治二十年七月七日遞信省告示第二百二十一號〕

現行條例規則大全

第二編 規則

(第二) ◎同業組合準則 (明治十七年十一月廿九日農商務省達第卅七號)

第一條 農工商ノ業ニ從事スル者ニシテ同業者或ハ其營業上ノ利害ヲ共ニスル者組合ヲ設ケントスルハ適宜ニ地區ヲ定メ其地區内同業者四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ規約ヲ作り管轄廳ノ認可ヲ請フ可シ

第二條 同業組合ハ同盟中營業上ノ弊害ヲ矯メ其利益ヲ圖ルヲ以テ目的ト爲スベシ

第三條 同業組合ノ規約ニ掲グベキ事項ハ左ノ如シ

第一項 組合ヲ組織スル業名及組合ノ名稱

第二項 組合ノ地區及事務所ノ位置

第三項 目的及方法

第四項 役員ノ選舉法及權限

第五項 會議ニ關スル規程

第六項 加入者及退去者ニ關スル規程

第七項 費用徴収及賦課法

第八項 違約者ノ處分方法

右ノ外組合ニ於テ必要トナス事項

第四條 組合ノ設アル地區内ニ於テ組合員ト同業ヲ營ム者ハ其組合ニ加盟スベシ

但事業ノ規模及趣向ヲ異ニスルカ爲メ加盟シ難キカ或ハ加盟ヲ拒ムベキ事情アルキハ管轄廳ニ申出テ其認定ヲ請フベシ

第五條 同業組合ハ同業組合ノ資格ヲ以テ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 同業組合ハ總テ其事蹟及要用決算表ヲ毎年管轄廳ニ報告スベシ

第七條 規約ヲ改正スルキハ更ニ認可ヲ請フベシ

第八條 分立又ハ合併スルキハ更ニ規約ヲ作り認可ヲ請フベシ

第九條 同業組合ニ於テ聯合會ヲ設ケ其規約ヲ作ルキハ管轄廳ノ認可ヲ請フベシ

但其聯合ニ府縣以上ニ涉ルキハ開會地管轄廳ヲ經由シテ農商務省ノ認可ヲ請フベシ

一 同業組合準則適用方〔明治十八年八月八日農商務省第三十五號〕

(第二) ◎茶業組合規則 (明治二十一年十二月二十九日農商務省令第四號)

第一章 總則

第一條 此規則中茶業者トアルハ茶ヲ製造シテ販賣シ又ハ茶園ヲ所

有シ茶生葉ヲ販賣スル者及生葉若クハ製茶ヲ仲買又ハ販賣スル者
ヲ總稱ス

第二條 茶業者ハ製品ヲ精良ニシ販路ヲ擴張シ賣買ヲ正確ナラシム
ルノ目的ヲ以テ組合ヲ設ケ之ニ加入スベシ

但自家用製茶ノ殘生葉ヲ販賣スル者ハ各組合ニ於テ制限ヲ設ケ
組合ニ加入セシメザルモ妨ナシ

第三條 組合ノ設置ハ郡區ノ區畫ニ依ルベシ若シ一郡區内ニ於テ茶
業者小數ナルトキハ近隣郡區ノ同業者ト合併スルコトヲ得

第四條 郡區ノ狀況ニ依リ茶ヲ製造シテ販賣スル者ト茶園ヲ所有シ
テ生葉ヲ販賣スル者及生葉若クハ製茶ヲ仲買又ハ販賣スル者トテ
區別シテ組合ヲ設クルノ必要アルキハ農商務大臣ノ許可ヲ受クベ
シ

第五條 組合ノ名稱ハ何府何郡何縣何區茶業組合ト稱スベシ

第六條 組合ハ郡區内便宜ノ場所ニ各組合事務所ヲ置キ其組合ニ關
スル一切ノ事務ヲ整理スベシ

第七條 組合ハ其氣脈ヲ聯通スル爲メ府縣ノ區畫ニ依リ便宜ノ地ニ
聯合會議所ヲ設ケ東京ニ中央會議所ヲ設クベシ(二十二年三月十五日農
商務省令第五號ヲ以テ本條ヲ削除ス)

第八條 組合ハ此規則ノ範圍内ニ於テ其業務ニ關シ組合及會議所ノ
規約ヲ定ムベシ

第九條 組合及聯合會議所ノ規約ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ中央會議
所ノ規約ハ農商務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第二章 組合員

第十條 組合員ハ組合ノ名義ヲ以テ營利事業ヲナスコトヲ得ス

第十一條 組合員ハ組合及會議所ノ規約ヲ遵守シ且其費用ヲ負擔ス
ルノ義務アルモノトス

但費用負擔ノ割合及徴収方法ハ規約ヲ以テ定ムベシ

第十二條 社名若クハ組合ヲ以テ組合員タル者ハ相當ノ代理人ヲ定メ置キ組合ニ關スル一切ノ責ニ任ゼシムベシ

第三章 役員

第十三條 各組合事務所ニハ組長及委員ヲ置キ委員ハ部内ノ組合員之ヲ選定シ組長ハ委員中ヨリ之ヲ互撰スベシ

但選任及ヒ改選ノ都度聯合會議所ヲ經テ地方廳ニ届出ツベシ

第十四條 組長ハ委員ト協議シテ部内組合ノ取締ヲ爲シ其他一切ノ事務ヲ整理スベシ

第十五條 組長ハ常ニ營業上ノ利害ニ注意シ組合ノ確實ヲ圖ルベシ

第十六條 組長ハ部内組合中ニ生シタル紛議ヲ仲裁シ及ヒ違約者アルトキハ規約ニ依リ處分スルコトヲ得

但會議所ノ規約ニ違背シタル者ヲ處分シタルハ其旨會議所ニ

通知スベシ

第十七條 組長ハ議員ノ資格ヲ以テ聯合會議及中央會議ニ列スルコトヲ得

第十八條 聯合會議所ニハ事務員若干名ヲ置キ聯合會議ニ關スル事務及ヒ聯合會議ノ規約ヲ以テ定メタル事務ヲ取扱ハシムベシ

第十九條 聯合會議所ノ事務員ハ會議ニ於テ部下組合員中ヨリ之ヲ選定シ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第二十條 聯合會議所ノ事務員ハ議員ノ資格ヲ以テ聯合會議ニ列スルコトヲ得

第二十一條 中央會議所ニハ事務員若干名ヲ置キ中央會議ニ關スル事務及中央會議所ノ規約ヲ以テ定メタル事務ヲ取扱ハシムベシ

第二十二條 中央會議所ノ事務員ハ中央會議々員ニ於テ全國組合中ヨリ之ヲ選定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クベシ

但時宜ニ依リ組合員外ノ者ト雖モ選舉スルコトヲ得
第二十三條 中央會議所ノ事務員ハ議員ノ資格ヲ以テ中央會議ニ列
スルコトヲ得

第四章 會議

第二十四條 會議ヲ分テ聯合會議及中央會議トシ聯合會議ハ聯合會
議所ニ於テ中央會議ハ中央會議所ニ於テ定時又ハ臨時ニ之ヲ開ク
ベシ

第二十五條 聯合會議ニ於テハ會議所々在府縣ノ組合ニ關スル事項
ヲ議定シ中央會議ニ於テハ全國ノ組合ニ關スル事項ヲ議定スベキ
モノトス

第二十六條 聯合會議ノ議員ハ部下各組合員之ヲ選定シ中央會議ノ
議員ハ聯合會議々員之ヲ選定スベシ

第二十七條 聯合會議及中央會議ニ出席スベキ議員ノ數ハ産額ノ多

寡ニ從ヒ規約ニ於テ之ヲ定ムベシ

第二十八條 會議ノ正副議長ハ議員中ヨリ之ヲ互撰スベシ

第二十九條 會議ノ正副議長及議員氏名並ニ會議開閉期日其聯合會
議ニ係ルモノハ地方廳ニ其中央會議ニ係ルモノハ農商務省ニ届出
ツベシ

第三十條 農商務大臣ハ中央會議地方長官ハ聯合會議ノ開閉又ハ議
員ノ改選ヲ命スルコトアルベシ

第三十一條 會議ハ議員半數以上出席セザレバ當日ノ議事ヲ開クコ
トヲ得ス

但議員半數以上欠席三日以上ニ涉ルキハ半數以內ト雖モ議事ヲ
開クコトヲ得

第三十二條 議事ハ出席員過半數ニ依ラテス可否同數ナルトキハ議
長ノ決スル所ニ據ル

第五章 規約

第三十三條 各組合ノ規約ハ其部内組合員中ヨリ委員ヲ撰定シテ左ノ事項ニ據シ之ヲ定ム

- 一 違約者處分ノ方法
- 一 經費賦課徴収支出ノ方法
- 一 其他組合ノ情況ニ依リ必要ナル條件

第三十四條 聯合會議所ノ規約ハ左ノ事項ニ據リ會議ニ於テ之ヲ定ムベシ

- 一 聯合會議所ノ位置
- 一 製茶ヲ改良シ販路ヲ擴張スルノ方法
- 一 製造及ヒ販賣上ノ弊害ヲ矯正スルノ方法
- 一 部下ノ組合ニ關スル事務ヲ處辨シ及ヒ紛議ヲ仲裁スルノ方法

第三十五條 中央會議所ノ規約ハ左ノ事項ニ據リ會議ニ於テ之ヲ定ムベシ

- 一 中央會議所ノ位置
- 一 全國組合ノ氣脈ヲ聯通スルノ方法
- 一 内外茶葉ノ實業ノ實況ヲ調査ニ及ヒ之ヲ報告スルノ方法
- 一 組合ノ位置
- 一 組合員ノ証標
- 一 粗惡不正取締ノ方法

- 一 役員選舉ノ方法
- 一 組合入退者取扱ノ方法
- 一 中央會議々員及ヒ事務員選舉ノ方法
- 一 中央會議ニ關スル規程
- 一 經費賦課徴収支出ノ方法
- 一 其他中央會議ニ於テ必要ト認メタル條件

第六章 罰則

第三十六條 此規則第二條第九條第十條第十一條ニ違犯シタル者ハ金二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

(二) 茶業組合及會議所設置規約議定ノ期限(明治二十二年一月九日農商務省訓令第二號)

(第三) ◎度量衡改定規則 (明治九年二月十九日布告第十七號)

第一條 三器改定ニ付各地方ニ三器製作所並賣捌所ヲ設ケ製作所ニ於テ製作セル新器來ル三月十五日ヨリ賣捌所ニ於テ發賣爲致從前榭坐秤坐ハ同日ヨリ廢止候事

第二條 各地方ニ舊器改所ヲ設ケ候條從前所持ノ三器來ル三月十五日ヨリ十二月二十五日マデニ右改所へ差出シ檢査ヲ受クベシ右期日ヲ過キ檢印ナキ器ヲ商業上ニ用フルヲ禁ス時宜ニヨリ掛リ官吏商家ニ入り用器ヲ視察スベキ事

但改所ニ於テ檢査ノ上新器ニ適合セル分ハ檢印シ廢スベキ分ハ廢ノ字ヲ印シ總テ所持人ニ下ケ戻スベシ

第三條 製作所賣捌所官許ノ外三器製作賣捌一切不相成事
但尺ハ尸杖等一時使用ノ爲メ目盛致シ榭ハ芋鳥芋等ヲ量ル爲メ箱ヲ製シ又ハ賣買スルハ苦シカラズ

第四條 尺度科量ノ目ヲ盛直シ榭ノ縁鐵ヲ打替ヘ斗概ヲ修覆スル等

ハ必ス製作所へ差出スベク秤量ノ緒紐ヲ附替フルハ製作所又ハ賣捌所ニ差出スベシ其他ノ人自儘ニ致シ候儀不相成事

第五條 新舊器其檢印アルヲ賣捌度者ハ必ス賣捌所ニ可申出事

但秤ノ錘皿又ハ榭ノ縁鐵弦鐵ヲ取離シ古鐵トシテ賣買スルハ苦シカラズ

第六條 第二條以下ノ禁令ヲ犯ス者ハ其品取上ケ律ニ照シテ處斷ス
ハ事

(第四) ◎墓地及埋葬取締規則 (明治十七年十月四日大政官布達第二十五號)

第一條 墓地及火葬場ハ管轄廳ヨリ許可シタル區域ニ限ルモノトス

第二條 墓地及火葬場ハ總テ所轄警察署ノ取締ヲ受クベキモノトス

第三條 死體ハ死後二十四時間ヲ經過スルニ非ザレバ埋葬又ハ火葬ヲナスコトヲ得ス

但別段ノ規則アルモノハ此限ニアラズ

第四條 區長若クハ戶長ノ認許証ヲ得ルニ非ザレバ埋葬又ハ火葬ヲナスコトヲ得ス

但改葬爲サントスル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クベシ

第五條 墓地及火葬場ノ管理者ハ區長若クハ戶長ノ認許証ヲ得タル者ニ非ザレバ埋葬又ハ火葬ヲナサシムベカラズ又警察署ノ許可証ヲ得タル者ニ非ザレバ改葬ヲナサシムベカス

第六條 葬儀ハ寺堂若クハ家屋構内又ハ墓地若クハ火葬場ニ於テ行フベシ

第七條 凡ソ碑表ヲ建設セント欲スル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クベシ其許可ヲ得スシテ建設シタルモノハ之ヲ取除ケシムベシ

但墓地外ニ建設スルモノ亦之ニ準ス

第八條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ警視總監府知事縣令ニ於テ便

宜取設ケ内務卿ニ届出ヘシ

(一) 墓地及埋葬取締規則ニ違背スル者處分方〔明治十七年十月四日大政官達第八十二號〕

(二) 墓地及埋葬規則細則標準〔明治十七年十一月十八日内務省達乙第四十號〕

(三) 醫師患者死亡届〔明治九年二月五日内務省達乙第十三號〕

第五 ◎街路取締規則標準 (明治十九年六月十四日)

第一章 通則

- 第一條 街路ト稱スルハ道敷及道敷ニ沿フタル下水並橋梁トス
- 第二條 本則ハ市街ノ道路ニ適用スベキモノトス
- 第三條 本則ニ於テ自費ヲ以テ爲スベキ義務ヲ怠ルトキハ官ニ於テ執行シ其費用ヲ徴収スベシ

第二章 街路ノ安寧及保存

第四條 街路ニ建物軒檐旗柱招牌物干等ヲ設ケ或ハ出スベカラズ

- 一 釣看板ハ地盤ヲ距ル一丈以上ニ限リ二尺以内
 - 二 軒檐ハ地盤ヲ距ル九尺以上ハ二尺六尺以上ハ一尺五寸以内
 - 三 日除ハ支柱ヲ用ヒズ地盤ヲ距ル七尺以上ニ限リ三尺以内
 - 四 掲燈ハ地盤ヲ距ル六尺以上ニ限リ一尺以内
- 第六條 左ノ事項ハ其場ノ圖面ヲ添ヘ管轄廳ニ願出允許ヲ受クベキモノトス

- 一 街路ニ床店葭簀張ヲ設クル事
- 二 街路ニ樹木ヲ植ヘ又ハ街燈ヲ建ツル事
- 三 街路ニ柵欄支柱ヲ設ケ又ハ齒止石ヲ置ク事
- 四 街路ニ華表碑表及指道標其他公衆ノ用ニ供スル標識ヲ建設スル事

- 五 街路ニ目塗土置場ヲ設クル事
- 六 工事ノ爲メ一時街路ニ竹木土石類ヲ置キ或ハ板圍繩張足代ヲ設ケ其他街路ヲ使用スル事
- 七 街路ヲ經テ建物ヲ移シ又ハ街路ヲ壅塞スベキ長大ノ物件ヲ運搬スル事
- 八 一時街路ニ舞臺神佛祭典等ノ節小尾掛歲市草市等ノ節及店飾ヲ設クル事
- 九 街路ニ神輿山車又ハ手踊屋臺ヲ出ス事
- 十 神佛送迎ノ爲メ街路ニ飾物ヲ出シ又ハ奉納物ヲ牛車ニテ運搬スル事
- 十一 街路ニ消防具其他公衆ノ用ニ供スル物件ヲ置ク事
- 十二 工事ノ爲メ一時通行ヲ停止スル事
- 十三 車馬通行停止ノ榜示アル場所ニ車馬ヲ出入スル事
- 第七條 街路ヲ使用シ之ヲ毀損シタル者ハ直ニ原形ニ復スベシ

- 第八條 街路ニ出タル軒檐ニハ軒樋及堅樋ヲ設クベシ其堅樋ハ街路ノ地盤ニ設クルコトヲ得ス但檐溜ノ下水ニ落ルモノハ此限ニアラズ
- 第九條 街路ニ沿フタル宅地ニシテ奥行九尺以上ノ空地アル場所ハ其模様ニ依リ道敷ノ境界ニ塙塙ヲ設クベキモノトス
- 第十條 街路ニ沿フタル場所ニ竹木ヲ立置クトキハ鐵鎖其他強靱ナル繩索ヲ以テ之ヲ纏束シ又薪炭其他ノ物件ヲ堆積スル者ハ頓仆セザル様堅牢ノ裝置ヲ爲スベシ
- 第十一條 街路ニ沿フタル建設物及樹木等崩壞頓仆ノ虞アルモノハ速ニ修理撤却若クハ扶植伐採スベシ
- 第十二條 街路ニ竹木土石類ヲ置クトキハ標識ヲ設クベシ
- 第十三條 運搬中ノ建物若クハ長大ノ物件ヲ夜中街路ニ停メ置クトキハ路傍ニ片寄セ標燈ヲ掲クベシ